

| リハビリテーション論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|----------------------|--|---|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]: 寺本 佳津明 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]: 特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | リハビリテーションの定義・理念について学ぶ。それに基づいてリハビリテーションを受ける対象の障害の構造を国際生活機能分類 (ICF) に基づいて把握し、必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を体系的に学習する。リハビリテーションチームにおける看護職の役割を理解し、他職種や他施設の看護職との連携の必要性について学ぶ。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義形式で配布資料を使用しながら適宜教科書の中の動画なども積極的に用いて理解を深めるように進めていく。実技も積極的に取り入れ、実践に向けた技術を習得する。授業の終わりに小テストを行い、理解度を確認し合わせて重要なポイントを押さえるようにする。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | リハビリテーション全般について理解する。 リハビリテーションチームの特徴・役割・機能を説明する。 | | | ◎ | | |
| | 技能 | 運動・呼吸・排泄機能障害のある対象のリハビリテーション看護に必要な援助技術を習得する。 循環器機能障害のある対象のリハビリテーション看護に必要な援助技術を習得する。 摂食・嚥下機能障害のある対象のリハビリテーション看護に必要な援助技術を習得する。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | リハビリテーションについて理解し、それらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力しながら学修に取り組むことができる。 | | | ◎ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 試験 | | 50 | - | 10 | - | 60 |
| | 小テスト | | 10 | - | - | 30 | 40 |
| | | | | | | | |
| | 合計(点) | | 60 | - | 10 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | 授業態度は、授業の小テストを中心に判断します。試験結果、出席日数、授業態度などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | | |
| テキスト | 特にありません | | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料は毎回授業の前に配布します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | <p>リハビリテーションとは リハビリテーションの概念・歴史・対象・領域・障害期について リハビリテーションに用いられる主要な概念 ICIDHとICF、ADLの概念、ノーマライゼーション、ヘルスプロモーション、生活モデルについて リハビリテーションにおける倫理と法律、施策 障害者の定義と動向、障害者の権利、障害者の倫理と課題、障害者を支える法律と施策</p> <p>(目標) ・授業ガイダンス、リハビリテーションの概念と歴史の変遷をICFとICHDHを交えて理解する (準備・課題) ・テキスト第1章を熟読し、章末の【復習と課題】8題についてノートにまとめる(4h)</p> | | | | | | |
| 2 | <p>チームアプローチと看護の役割 チームアプローチの意味と関連職種とその業務、チームアプローチの意味と情報共有 チームにおける看護の役割 生活再構築支援の主な概念・理論 ICFによるアセスメント、危機理論、自己効力理論、セルフケア理論、自己概念と障害受容、レジリエンス、エンパワーメント、家族システム</p> <p>(目標) ・チームアプローチの重要性について理解する ・生活再構築支援に関する概念について理解する (準備・課題) ・テキスト第2章を熟読し、章末の【復習と課題】13題についてノートにまとめる(4h)</p> | | | | | | |
| 3 | <p>リハビリテーション看護の実際① 「障害のとらえ方と評価」 「脳卒中リハビリテーション」(急性期・回復期・維持期) 「パーキンソン病・認知症のリハビリテーション」</p> <p>(目標) ・評価方法、評価結果の解釈と対応を理解する ・患者教育の重要性と方法を学ぶ (準備・課題) ・テキスト第4章を熟読し、章末の【復習と課題】9題についてノートにまとめる(4h)</p> | | | | | | |
| 4 | <p>リハビリテーション看護の実際② 「循環器疾患のリハビリテーション」</p> <p>(目標) ・呼吸と循環の関連性を理解し、病態に合わせた対応方法を学ぶ (準備・課題) ・テキスト第5章を熟読し、章末の【復習と課題】6題についてノートにまとめる(4h)</p> | | | | | | |
| 5 | <p>リハビリテーション看護の実際③ 「運動器疾患のリハビリテーション」 「実技演習」</p> <p>(目標) ・骨折・脊髄損傷・リウマチ・腱損傷などのリハビリテーションについて学ぶ ・トランスファー技術を習得する (準備・課題) ・テキスト第3章を熟読し、章末の【復習と課題】10題についてノートにまとめる(4h)</p> | | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 6 | <p>リハビリテーション看護の実際④ 「失語症患者ののリハビリテーション」 「摂食嚥下機能障害のリハビリテーション」 (目標) ・失語症について分類・症状などを理解する ・嚥下機能と評価について理解する (準備・課題) ・失語症、構音障害、摂食・嚥下障害における看護アプローチと注意点についてまとめる (4h)</p> |
| 7 | <p>リハビリテーション看護の実際⑤ 「糖尿病・がんのリハビリテーション」 (目標) ・代謝・内分泌・がんのリハビリテーションについて学ぶ (準備・課題) ・内部障害、がんのリハビリテーションにおける看護アプローチと注意点についてまとめる (4h)</p> |
| 8 | <p>「地域リハビリテーション・社会福祉制度について」 (目標) ・地域リハビリテーションに関する日本の定義や地域支援活動について学ぶ ・社会資源の活用について事例を通じて学ぶ (準備・課題) ・障害者を支える制度についてまとめる (2h)</p> |
| 時間外での学修 | <p>質問などがあれば授業後積極的に質問してください。 小テストに向けて(準備・課題)をしっかり行いましょう。</p> |
| 受講学生へのメッセージ | <p>リハビリテーション看護を必要とする人は増加しています。生活を送るために必要な機能とは、社会の中で自分らしく生きるとは、障害とともに生きるとは、リハビリテーション看護とはについて、皆さんと共に考えていきたいと思っています。 オフィスアワーは、講義終了後に教室にて行います。</p> |

| 社会福祉論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|---------------------|---|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]：北嶋 勉 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 国民のセーフティネットとして、社会福祉・社会保障制度は日本国憲法で規定する基本的人権等の施策としても重要な役割がある。しかしながら、時の政治的・経済的状況や、現在と将来にわたる人口構造等の問題に左右されることも事実である。諸課題に左右されつつも現に諸制度を現業・研究等職業を通じ、前記の社会福祉・社会保障制度の理念・原理について理解を深める。 | | | | | | |
| 授業方法 | テキスト・資料を中心に進める他、定期的に課題設定のレポート提出を求める。「具体的な理解の深まりと不足する事項に係る自己学習」等のための「定期的自己評価」を任意用紙にて提出を求める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ①看護職を目指すものとして基本となる社会福祉の成り立ち・目的・方法等についての知識を学ぶ。 ②自己と他者・社会との関わり、又社会的弱者への支援における社会福祉の原理について学ぶ。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | ①「何故に」と問いかける探究心を身につける。 ②様々な社会福祉関連法には「目的」「理念」が表記されており、そのことを考えることで人間・社会の価値（倫理）について考え、文章化、言語化ができる。 | | | ◎ | | |
| | 技能 | ①様々なデータから社会福祉の課題や問題点を見出すことができる。 ②発見した課題間の関連性を見出すことができる。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | ①時事問題に関心を持つことができ、社会福祉との関連性について関心を持つことができる。 ②インターネット等様々な方法で社会福祉の情報を得る他その情報から正しい知識を学びとる態度を身につける。 | | | ○ | | |
| | 備考 | 国家試験の過去問題の解説等も行います。 | | | | | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | | 30 | 25 | - | - | 55 |
| | 課題レポート | | 10 | 10 | 10 | - | 30 |
| | 自己評価 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 受講態度 | | - | - | - | 5 | 5 |
| | 合計(点) | | 40 | 35 | 10 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | <p>1. 筆記試験 55点：社会福祉に関する基礎的な問題（選択方式）に合わせ「根拠」により考察・推測し、的確に記述できることを評価する。</p> <p>2. 課題レポート 30点：授業内容をより深めるため定期的にレポートの提出を求める。基本、その内容の評価等コメントをする。比較的比重を高くしているのは、課題に対する知識・理解を深める力を培うためである。</p> <p>3. 自己評価 10点：当方で準備する「自己評価表」の提出を定期的に求める。具体的に理解できたところ・理解できなかったところを整理し、特に理解を深める事項についての「取り組み姿勢」まで言及を求める。</p> <p>4. 受講態度 5点：私語・雑談・本授業以外の作業等については、都度注意をし、当該点から減点する。</p> <p>5. レポート等提出回数や提出期限は評価対象とします。（減点します。）</p> <p>*欠席は基礎点数である100点からの減点とする。3回以上の欠席が授業最終日までに確定している者は、筆記試験を受けるまでもなく単位取得ができない。</p> | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 新聞記事や省庁公表の資料等必要に応じ準備します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 社会福祉・社会保障の歴史と目的について学ぶ。 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。現代の社会福祉・社会保障の歴史的発展過程を学び今日の社会福祉・社会保障を取り巻く諸課題を学ぶ。(4h) | | | | | | |
| 2 | 社会福祉の実践と技法及び分野別社会福祉諸制度について学ぶ。 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。看護職が担う社会福祉実践についても触れる。今日医療機関に限らず様々な分野で看護業務が実践されており医療・看護知識に限らず幅の広い知識や技法が求められていることに応えていく。(4h) | | | | | | |
| 3 | セーフティネットである生活保護制度と地域福祉について学ぶ。 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。社会保障制度の中で最も基礎となる「生活保護制度」について仕組み・制度内容・今日的傾向について学ぶ。(4h) | | | | | | |
| 4 | 地域福祉について学ぶ [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。地域福祉の基本的理念と歴史について学ぶ。又、現在推進されている「地域包括ケア」について地域福祉との関連から学ぶ他、チームケアについて学ぶ。(4h) | | | | | | |
| 5 | 社会保障制度について学ぶ ①年金制度と医療保険制度 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。当該制度の仕組み・目的を理解するほか今日的課題についても理解する。(4h) | | | | | | |
| 6 | 社会保障制度について学ぶ ②介護保険制度と雇用保険制度 [準備・課題]事前にテキストに目を通しておく。当該制度の仕組み・目的を理解するほか今日的課題についても理解する。(4h) | | | | | | |
| 7 | まとめ 「生活と福祉」の関連を学ぶ [準備・課題]生活をするうえで「福祉」がどのような位置にあるか、「有事」の際に限らずどのような役割を持ち、どのような役割を私たちは持たなければならないか等、テキストの事例に触れながら考える。(4h) | | | | | | |
| 8 | 看護師国試過去問を解き、解説する。 [準備・課題]筆記試験に関連する統計表等に触れ、数値変化とその意味するところを推測する。(2h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 社会福祉及び社会保障について8回で学ぶため事前学習及び適宜設定する「課題レポート」「自己評価による理解度チェックと取り組み」はとても重要となる。特に「課題レポート」には設定問題を通し、「自分の考え」についても触れてもらいたい。 | | | | | | |

| | |
|-----------------|--|
| 受講学生への メッセージ | 社会福祉は人間理解と大いに関連する。その意味で看護に必要不可欠な知識・技能といえる。社会福祉・社会保障が時の政治、経済、環境（人口構成等）に少なからず影響されながらも普遍的な原理原則に立ちながら他者（クライアント）に向き合う意義・意味についても考えたい。 オフィスアワーは、教室で講義終了後に行う。 |
|-----------------|--|

| 看護医療安全管理学 | | 看護学科 | | 2年後期 | | |
|---------------------|--|--|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | |
| [教員]：伊藤 恒子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 医療のあらゆる現場において医療安全は最優先課題のひとつです。看護職には、人々の安全のみならず自分自身を守る安全管理の確かな知識とスキルが要求されます。本科目では医療安全の確保及び看護の質向上の観点から、リスクマネジメントに関する基礎的知識と事故防止対策、必要なスキルについて解説します。また学生自身がヒューマンエラーを起こす存在であることを自覚し、自己モニタリングできることを目指します。 | | | | | |
| 授業方法 | テキスト及び配布資料を基に講義し、適宜グループワークを取り入れます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 医療安全とは何かを関係法規と合わせて理解する。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 安全プログラムの中から、感染防止・制御・衛生、ヒューマンエラー、事故発生時の対応を理解する。 | | | △ | |
| | 技能 | チーム医療の一員として、医療安全を考え行動することの意味を述べる事が出来る。 | | | △ | |
| | 関心・意欲・態度 | 看護職にとつての医療安全に強い関心を持ち主体的に学習することが出来る。 | | | △ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 筆記試験 | 60 | - | - | - | 60 |
| | 課題レポート | - | 10 | 10 | - | 20 |
| | ミニレポート | 10 | - | - | - | 10 |
| | グループワーク参加度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合計(点) | 70 | 10 | 10 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ『看護の統合と実践(2)：医療安全』』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 適宜提示します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 序：授業のガイダンス、医療における安全管理とは何か 【講義・グループワーク】 [準備・課題] 講義の進め方を理解し、予習復習に生かす。安全管理とは何かを理解する。 配布資料・講義内容・グループワークを振り返り、レポートにまとめる。(1h) | | | | | |
| 2 | 看護業務の特性と医療事故 【講義】 [準備・課題] 日々実践する看護業務がどのような事故につながる危険性があるかを学ぶ。 配布資料と講義内容を振り返り、課題を整理して要点をまとめる。(1h) | | | | | |
| 3 | 看護職に求められる個人情報保護と倫理綱領 【講義・グループワーク】 [準備・課題] 看護概論で学んだ倫理綱領と過去に問題となった事例を関連付けて検討し、自己に置き換えて理解する。グループワークでの学びを整理する。(2h) | | | | | |
| 4 | 感染予防と安全管理 【講義・グループワーク】 [準備・課題] 安全管理のための具体的な行動とは何かを知り、習得した看護技術と関連付けて理解する。 講義内容と看護学生としての課題を整理してまとめる。(2h) | | | | | |
| 5 | 看護実践と危険予知（インシデント・アクシデントの活用意義） 【講義】 [準備・課題] インシデント等が危険予知にどの様に生かされているかを学び、看護場面から読み取る能力を養う。 教科書、配布資料、講義内容を振り返り、課題を整理してまとめる。(1h) | | | | | |
| 6 | ヒューマンエラーと医療事故 【講義・自己分析テスト】 [準備・課題] 人ゆえに起す思い込み・勘違い等のミスが引き起こす医療事故と自己の傾向を知り、今後に生かす。 教科書、配布資料、自己分析テストを振り返り、自己の傾向と課題を整理する。(1h) | | | | | |
| 7 | 医療従事者が問われる法的責任（実際に起こった医療事故から学ぶ） 【講義・レポート】 [準備・課題] 今までの学びから、看護実践の中で問われる刑法、民法、保助看法、医師法とのかかわりを整理して講義に望む。 看護職を目指す学生として講義内容から何を学んだかをレポートにまとめる。(2h) | | | | | |
| 8 | 行政における近年の状況（ADR、医療事故調査の法制化等）、全体のまとめ 【講義】 [準備・課題] 受講を振り返り看護師（看護学生）としての医療安全管理の要点をまとめる。 教科書、配布資料、講義内容を振り返り、自己の課題を整理する。(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 関連科目の復習してください。 新聞等の医療事故ニュースや医療の関連記事にも関心を持ち、幅広い学習を進めてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 関連する教科と結びつけて学習し、単に知識にとどまらず実践的能力として身につけてほしい。よって積極的に学び取る姿勢で臨んでください。グループワークなども取り入れ、できるだけ参加型授業形態を取り、共に学べる授業にしたいと思います。 オフィスアワーを有効に活用してください。（日程は別途お知らせいたします） | | | | | |

| 看護関係法令 | | 看護学科 | | 2年後期 | | | |
|---------------------|--|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]：松原 薫 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 看護業務は人間の生命に直接関係するため、それに関わる人の身分や業務内容、教育制度など法令によって規制されています。本科目では、法の概念と厚生行政の仕組み、関連する法規について理解することを目標とします。具体的には看護業務と労働に関連する保健師助産師看護師法、看護師の人材確保の促進に関する法律、労働基準法、医療法、薬事法などについて教授します。また、身近な生活環境の衛生を維持するための保健衛生や健康に関する法規について、その理念と特徴について教授します。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義中心で行うが、課題学習やグループワークを活用して授業を展開する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 法の種類と基本的性格について理解する。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 学習した法規をもとに、看護職としての職務を遂行するための根拠や判断基準がわかる。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 看護職として働くため関係する法規を学習する。 | | | ○ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 筆記試験 | | 70 | - | - | - | 70 |
| | 発表(グループワーク) | | - | 10 | - | - | 10 |
| | 課題提出 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 受講態度(ミニレポート) | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合計(点) | | 70 | 10 | - | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | ミニレポートは毎回記入し提出する。欠席分の点数は加算されない。 レポート・グループワークなどの具体的な評価基準は授業で提示する。 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 医療関係法規』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業で提示する。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | (1)法の概念/法の種類と基本性格、基本となる法規を理解する。 (2)医事法① 保健師助産師看護師法と看護師の資格/目的と定義、免許について理解する。(講義) [課題]学習したことの復習 (1h) | | | | | | |
| 2 | 医事法② 保健師助産師看護師法と看護師の資格/看護師等の業務について理解する。(講義) [課題]学習したことの復習 (1h) | | | | | | |
| 3 | 医事法③ 保健師助産師看護師法と看護師の資格/医療過誤について理解する。(講義) [課題]学習したことの復習 (1h) | | | | | | |
| 4 | 医事法④-1 看護師等の人材確保の促進に関する法律/目的・内容を理解する ④-2 看護に関する医師法・医療法/医師法：免許と業務について理解する。医療法：目的・内容について理解する。(講義) [課題]学習したことの復習 (1h) | | | | | | |
| 5 | 健康に関する法律① 保健衛生法、業務法、環境衛生法/目的・内容について理解する。 ② 社会保障制度と社会福祉に関する法律/目的・内容について理解する。 (1)看護職の労働に関する法律/労働基準法、労働安全基本法、個人情報保護に関する法律について理解する。(講義) [課題]学習したことの復習 (1h) | | | | | | |
| 6 | (1)看護師の資格や業務が法律で規制されている理由、医療の提供に関する看護師に関わる法律について理解する。(グループワーク：取り組み姿勢を評価) [準備・課題]今までの学習内容から(1)について各自調べ考える。課題提出(評価対象)(3~4h) | | | | | | |
| 7 | (1)看護師の資格や業務が法律で規制されている理由、医療の提供に関する看護師に関わる法律についてグループの考えをまとめ発表する。(評価対象) [課題]他のグループ発表で学んだことをまとめる (2h) | | | | | | |
| 8 | 看護師が法を学ぶ理由について理解する。(講義・GW) 講義で学んだ内容を振り返り総合的なまとめを行う。(2~3h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 授業で学んだ法律が身近なところで実際にどのように使われているのか、改めて周りを見てみましょう。家族や身近な人に聞いたり、ニュース・新聞などで確認してみてください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 法令は難しいと考えがちですが、実際の社会生活とつながっていると分かる面白く思えます。日常生活においても、ためになることが多く出てきますから授業を大切にしてください。オフィスアワーは、場所は研究室、毎週木曜日の16：20から17：30ですが、事前連絡してから訪問してください。 | | | | | | |

| 臨床薬理学 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|---------------------|--|---|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 選択 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]：森 博美 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 将来、看護師として医療現場で働くときに必要な薬の知識を習得することで、安全・安心な薬物治療が実施でき、医師や薬剤師に薬の効果や副作用を的確に知らせることができるよう、また、国家試験の薬に関連する問題にも触れ、その内容を理解できるような授業内容である。 | | | | | | |
| 授業方法 | 座学を中心とし、簡単な実験などを取り入れ、より理解を深めることができるような方法を実施する。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 看護の基礎となる人間理解と看護実践に必要な知識を修得することができる。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 人々の健康問題の解決に向けて論理的に思考・判断するとともに、専門職としての責務について考えることができる。 | | | △ | | |
| | 技能 | 看護活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力・態度を身につけ、看護を実践できる。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 保健・医療・福祉分野の動向に関心をもち、人々の健康生活を守るとともに地域連携・貢献を推進していくために、自己の知識や技術の向上を目指して主体的かつ探究的な姿勢をもつことができる。 | | | △ | | |
| | 備考 | ◎・○・△は、学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています | | | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 試験 | | 60 | - | - | - | 60 |
| | レポート(1回) | | 10 | 10 | - | - | 20 |
| | 学習成果の自己評価 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 受講態度 | | 5 | - | 5 | - | 10 |
| 合計(点) | | 75 | 10 | 5 | 10 | 100 | |
| 評価の特記事項 | 受講態度は、学修への取り組みや発表・提出などの状況で評価します。欠席は減点とし、3回以上の欠席者には単位を与えません。 | | | | | | |
| テキスト | | | | | | | |
| 参考書・教材 | 森博美, 山口均 監修『急性中毒ハンドファイル』医学書院, 4,104円 中野哲, 森博美 編著『実践漢方ガイド』医学書院, 6,260円 必要な資料は各回冒頭に各自に配布します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 感染症に用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、計算問題も容易に理解することができる) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h) | | | | | | |
| 2 | 排便障害に用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な時実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h) | | | | | | |
| 3 | 睡眠障害に用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]内容を復習する。(4h) レポートの課題内容を伝える。 | | | | | | |
| 4 | 漢方薬について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h) | | | | | | |
| 5 | 痛みを用いる薬剤について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、麻薬の管理についてしっかり学ぶ) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h) | | | | | | |
| 6 | 誤薬・過量投与に対する対応、薬の希釈や投与量の計算について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する、また簡単な実験を行う) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h) レポートを教務へ提出する。 | | | | | | |
| 7 | 薬の重篤な副作用について学ぶ (1年生の復習を行うと同時に実践的な内容を習得する) [準備・課題]学習した内容を復習する。(4h) | | | | | | |
| 8 | 補足・まとめを行う [準備・課題]総合的にまとめ、復習をする。(4~8h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 学修した内容を確実に復習する。質問があれば、授業終了後どうぞ。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 看護師さんになられたとき実践で必ず役に立つ授業であり、かつ国家試験で薬剤関連の問題が理解しやすくなると思います。薬の授業がきっと毎回楽しくなります。是非多く学生さんに受けてもらいたいです。オフィスアワーは授業がある火曜日の16:30~17:15で、非常勤講師控室にいます。 | | | | | | |

| 臨床病理学 | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|---------------------|---|-----------------------------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | |
| [教員]：佐々 敏・曾根 孝仁 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 臨床病理学とは臨床の現場で重要な疾病の成り立ちとその病態を理解する学問です。学生諸君が学外実習に入る前に、比較的よくみられる疾患を整理して実習に臨めるように配慮します。 | | | | | |
| 授業方法 | パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 看護師に必要な基礎知識を理解する。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 課題について論理的に考え、適切に説明することができる。 | | | ○ | |
| | 技能 | 図や表から臨床病理に関連する内容の理解ができる。 | | | △ | |
| | 関心・意欲・態度 | 自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。 | | | ○ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 筆記試験 | 60 | 5 | 5 | - | 70 |
| | レポート | - | 5 | 5 | 10 | 20 |
| | 学習成果の自己評価 | - | 5 | - | 5 | 10 |
| | 合計(点) | 60 | 15 | 10 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 試験は授業内及び定期テストで行います。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 | | | | | |
| テキスト | | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料は配布します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1佐々 | 免疫系疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3h) | | | | | |
| 2佐々 | 消化管・消化器疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3h) | | | | | |
| 3佐々 | 腎・尿路疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3h) | | | | | |
| 4佐々 | 感染症・血液疾患の病態 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する (3h) | | | | | |
| 5曾根 | 循環器疾患の病態と治療 I [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h) | | | | | |
| 6曾根 | 循環器疾患の病態と治療 II [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h) | | | | | |
| 7曾根 | 呼吸器疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h) | | | | | |
| 8曾根 | 内分泌疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 予習・復習に努めてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして 看護師に重要な疾患を楽しく学べるように努力します。お互いに頑張りましょう。オフィスアワーは佐々研究室、火曜日の16:00~17:00にきてください。 | | | | | |

| 看護過程演習 | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|------------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：服部 直子・古田 桂子・野網 淳子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 看護実践の思考基盤となる看護過程を理解し、事例を用いて具体的な問題解決のプロセスを学びます。 | | | | | |
| 授業方法 | テキストおよび配布資料を活用しながら、講義と個人ワーク、グループワークにより授業を展開します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 看護過程の各段階（アセスメント、看護上の問題の抽出、計画の立案、評価）における基本的な考え方を理解できる。また主な看護診断と介入方法について理解できる。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 事例について、アセスメントによって対象の全体像を把握し、看護上の問題を抽出できる。また、看護上の問題に対して看護計画の立案ができる。 | | | ◎ | |
| | 関心・意欲・態度 | 主体的に学習に取り組むことができる。 | | | △ | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 30 | 50 | - | - | 80 |
| | 課題 | - | 10 | - | - | 10 |
| | 受講態度・課題提出状況 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合計(点) | 30 | 60 | - | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020 原書第11版』医学書院(3,240円) ISBN:978-4-260-03443-2 『基礎看護学③基礎看護技術』メディカ出版 『基礎看護技術』は1年次購入のデジタルテキストに入っています。 | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要時提示します。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 看護過程の理解（1年次の復習）、共同問題・看護診断・看護ケア問題の区別 [準備]1年次に学習した内容について復習する。(2h) | | | | | |
| 2 | ゴードンの機能的健康パターンを使用した情報の整理と分析 [準備]1年次に学習した内容について復習する。(1h) | | | | | |
| 3 | 主な看護診断と看護介入① 入浴セルフケア不足、摂食セルフケア不足、歩行障害、便秘 [準備]4つの看護診断の定義・診断指標・関連因子について予習する。(1h) | | | | | |
| 4 | 主な看護診断と看護介入② 非効果的健康管理、転倒転落リスク状態、褥瘡リスク状態、嚥下障害 [課題]4つの看護診断の定義・診断指標・関連因子または危険因子について予習する。(1h) | | | | | |
| 5 | 関連図の書き方、看護計画の立案：共同問題・看護診断・看護ケア問題 | | | | | |
| 6 | 事例を用いた看護過程(1) 肝硬変の病態・治療・看護の理解、事例の理解 [準備]肝臓の解剖生理および肝硬変の病態・治療・看護について自己学習する。(2h) | | | | | |
| 7 | 事例を用いた看護過程(2) アセスメントシートを用いた情報の整理（グループワークおよび発表） [準備]アセスメントシートに情報を分類する。(1h) | | | | | |
| 8 | 事例を用いた看護過程(3) 情報の分析①健康知覚-健康管理パターン、栄養パターン [準備・課題]情報の分析をする。(2h) | | | | | |
| 9 | 事例を用いた看護過程(4) 情報の分析②排泄パターン、活動-運動パターン [準備・課題]情報の分析をする。(2h) | | | | | |
| 10 | 事例を用いた看護過程(5) 情報の分析③睡眠パターン 他 [準備・課題]情報の分析をする。(1h) | | | | | |
| 11 | 事例を用いた看護過程(6) 事例関連図（グループワーク、発表） [準備・課題]事例関連図を作成する。(2h) | | | | | |
| 12 | 事例を用いた看護過程(7) 問題リストと看護計画の立案（グループワーク） [準備]問題リストを作成する。(1h) | | | | | |
| 13 | 事例を用いた看護過程(8) 看護計画 [準備・課題]看護計画を立案する。(2h) | | | | | |
| 14 | 事例を用いた看護過程(9) 看護記録：SOAP [課題]看護記録の書き方を復習する。(1h) | | | | | |
| 15 | まとめ [準備]既習内容を復習し、不明な点を明確にする。(2h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 個人ワーク、グループワークを計画的に進めてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 看護の基盤となる思考プロセスを習得していきます。苦手意識を克服して主体的に学習を進めてください。毎回出席カードに感想・質問を記入してもらい、質問に対しては次の回で解説を加えていきます。遠慮なく質問してください。 オフィスアワー：毎週水曜日4・5限 319（服部）研究室 | | | | | |

| 看護過程実践実習 | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|--|---|---|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 実習 | 90時間 | |
| [教員]：服部 直子・馬場 貞子・古田 桂子・松原 薫・柴田 由美子・野網 淳子・栗原 美和 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り | | | | | | |
| 授業内容 | 対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を身につけていきます。また看護者に必要なコミュニケーションや観察の技術、また日常生活援助技術の向上を目指します。さらに、倫理的な態度を養うとともに自己の課題や看護観について考察を深めます。 | | | | | |
| 授業方法 | 大垣市民病院および博愛会病院の2施設で実習します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 対象の病態と治療について理解できる。 | | | △ | |
| | 思考・判断・表現 | 対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる。実習を振り返り自己の課題と看護感について説明できる。 | | | ◎ | |
| | 技能 | 対象および対象をとりまく人々と良好なコミュニケーションをとることができる。フィジカルアセスメントの技術を用いて患者の身体的情報を得ることができ。安全・安楽に配慮して看護援助を実践できる。 | | | ○ | |
| | 関心・意欲・態度 | 対象を尊重し、謙虚な態度で臨むことができる。主体的に学習に取り組むことができる。指示された時間や方法に則って行動することができる。 | | | ○ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 実習記録・レポート | 5 | 60 | - | - | 65 |
| | 看護実践 | - | - | 20 | - | 20 |
| | 実習態度 | - | - | - | 15 | 15 |
| | 合計(点) | 5 | 60 | 20 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020 原書第11版』医学書院 科目「看護過程演習」で購入済み | | | | | |
| 参考書・教材 | 適宜提示する。 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| | <p>1. 実習時期：平成30年8月～9月（2週間）</p> <p>2. 実習内容</p> <p>1) 病院実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者1名を受け持ち、看護過程を展開し、看護援助を実践する。 <p>[準備]事前に提示する課題に取り組む。(3h)</p> <p>受け持ち患者の疾患・検査・治療・看護について調べる。(4h)</p> <p>[課題]毎日の実習内容はその日のうちに記録し、翌日までに指導を受ける。(2h/日)</p> <p>2) 学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院実習前に、オリエンテーションおよび技術演習を実施する。 <p>[準備]既習の看護技術の練習をする。(4h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院実習終了後、グループでのまとめおよび全体発表を行い、学びを共有する。 <p>[課題]実習を振り返り学びをまとめる。(2h)</p> <p>詳細は実習オリエンテーションにおいて説明する。</p> | | | | | |
| 時間外での学修 | 既習の看護過程演習はもちろん1年次に学習した基礎看護技術論、生活援助技術論、治療支援技術論、フィジカルアセスメント演習の復習を十分に行って実習に臨んでください。特に、基本的な援助技術は確実に実施できるように、練習を重ねてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 体調管理を行い、遅刻・欠席することのないようにしてください。質問や相談等がある場合は、できるだけ実習中に対応できるように、早めに担当教員に報告・連絡してください。オフィスアワーについては実習オリエンテーション時に通知します。 | | | | | |

| 成人看護援助論(急性期) | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|----------------------|---|---|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 講義 | 30時間 | |
| [教員]: 大澤 伸治・柴田 由美子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]: 特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 手術療法により侵襲を受ける対象の生命危機に対応するための看護及び回復期における看護について理解する。周手術期における看護の基本的な考え方と援助方法について、消化器疾患、運動器疾患などの手術療法を受ける対象及びその家族の身体的・精神的・社会的側面に対する援助方法を学ぶ。 | | | | | |
| 授業方法 | 急性期に特徴的な術後合併症に対する援助方法については映像やロールプレイを用いて学習する。また、グループワーク及び成果発表等、翻转授業を積極的に取り入れ学習する。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 解剖生理学、病態学の知識をもとに科学的根拠をもって急性期の特徴的な援助方法を理解することができる。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 急性期に特徴的な合併症について、根拠に基づいて説明することができる。 | | | ◎ | |
| | 関心・意欲・態度 | グループワークにおいてチームの一員として主体的に知識の整理及び発表ができる。 | | | ◎ | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 40 | 20 | - | - | 60 |
| | グループワーク・発表 | - | 10 | - | 20 | 30 |
| | 提出課題 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合計(点) | 40 | 30 | - | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『DIGITAL NURSINGRAPICS』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ2 消化器疾患』医学書院 『病気がみえるvol. 1 消化器』MEDIC MEDIA | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 (大澤) | 授業ガイダンス、急性期看護の特徴と理解 (講義) [課題]急性期看護の定義についてまとめる (3~6h) | | | | | |
| 2 (大澤) | 急激な健康破綻、周手術期の理解 (講義) [課題]周手術期の定義、侵襲と生体反応についてまとめる (3~6h) | | | | | |
| 3 (大澤) | 手術後の看護①(手術後合併症の機序など) (講義) [課題]手術療法後に起き得る合併症についてまとめる (3~6h) | | | | | |
| 4 (大澤) | 手術後の看護②(手術後合併症の発症時期など) (講義) [課題]手術療法後に起き得る合併症についてまとめる (3~6h) | | | | | |
| 5 (大澤) | 手術後の看護③(手術後合併症予防のための援助など) (GW) [課題]発表資料及び発表原稿作成 (3~6h) | | | | | |
| 6 (大澤) | 創傷管理・カテーテル・ドレーン管理(創傷治癒過程の理解、管理の具体的方法など) (講義) [課題]創傷治癒過程、カテーテル・ドレーンについてまとめる (3~6h) | | | | | |
| 7 (大澤) | 急性期にある対象者の看護①(消化器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする消化器系疾患について、その病態及び治療をまとめる (3~6h) | | | | | |
| 8 (大澤) | 急性期にある対象者の看護②(消化器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする消化器系疾患について、その看護をまとめる (3~6h) | | | | | |
| 9 (大澤) | 急性期にある対象者の看護③(循環器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする循環器系疾患について、その病態及び治療をまとめる (3~6h) | | | | | |
| 10 (大澤) | 急性期にある対象者の看護④(循環器系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする循環器系疾患について、その看護をまとめる (3~6h) | | | | | |
| 11 (柴田) | 急性期にある対象者の看護⑤(脳・神経系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする脳・神経系疾患について、その病態及び治療をまとめる (3~6h) | | | | | |
| 12 (柴田) | 急性期にある対象者の看護⑥(脳・神経系疾患) (講義) [課題]手術療法を必要とする脳・神経系疾患について、その看護をまとめる (3~6h) | | | | | |
| 13 (柴田) | 急性期にある対象と家族の看護 (講義) [課題]患者及びその家族の身体的・精神的・社会的変化についてまとめる (3~6h) | | | | | |
| 14 (柴田) | チーム医療の必要性とその効力 (講義) [課題]急性期患者をとりまく医療者の機能についてまとめる (3~6h) | | | | | |
| 15 (柴田) | まとめ (講義) [課題]学んだ内容の復習 (3~6h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 既習の知識については理解しているものとして講義を進めます。予習をして講義に臨んで下さい。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 3年次の成人看護学実習(急性期)の基盤となる講義です。主体的に学習して実習に繋がる知識を得ることができるよう講義に臨んでください。講義に関する質問については遠慮なく研究室(A号館313)を訪室してください。 オフィスアワーは毎週月曜日の16時以降で設定します。実習で不在時には事前にアポイントをとって頂ければ調整します。 | | | | | |

| 成人看護援助論(慢性期) | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|----------------------|---|---|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 講義 | 30時間 | | |
| [教員]: 安藤 洋子・柴田 由美子 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]: 特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 慢性疾患を持つ成人に対し、その生涯を通してQOLの向上および充実を目指し、マネジメント(病気と生活の折り合いをつけながら自己管理を継続する)が可能となるように支援・教育を行っていく方法について学修します。また、看護の基本概念、基礎看護技術などを応用し、成人慢性期に必要な健康行動理論及び患者教育について、健康のレベル・目的に応じた知識・技術を学修します。 | | | | | | |
| 授業方法 | 疾患や治療についての知識をもとに、必要な看護援助について学修を進めていきます。生涯にわたって自己管理が必要な対象者に指導案を作成し、指導・教育のシミュレーションを実施しながら、知識・技術を深めていきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 1. 慢性期にある対象者の特徴について説明できる。 2. 慢性期にある対象の治療及び療養環境の特徴が理解できる。 3. 慢性の経過をたどる成人の看護が理解できる。 | | | ○ | | |
| | 思考・判断・表現 | 1. 慢性期にある対象者に必要な看護援助が理解できる。 2. 多職種連携や協働によるチーム医療の意義と看護の役割がわかる。 | | | ◎ | | |
| | 技能 | 1. 安全・安楽・自立の視点で指導案が作成できる。 2. 代表的な慢性疾患をもつ対象者や家族に対する支援や指導の方法がわかる。 | | | ○ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 1. 協働学習を通じ自己の考えを明確にし、積極的に取り組むことができる。 | | | ○ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 筆記試験 | | 20 | 30 | - | - | 50 |
| | レポート | | 5 | 5 | - | - | 10 |
| | 発表 | | - | - | 20 | 10 | 30 |
| | 受講態度 | | - | - | - | 10 | 10 |
| 合計(点) | | 25 | 35 | 20 | 20 | 100 | |
| 評価の特記事項 | 発表の評価は、グループ討議での貢献度含む。 | | | | | | |
| テキスト | 『ナーシンググラフィカ 成人看護学④』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1(安藤) | 授業のガイダンス 科目全体の構成と概説、成人看護援助論(慢性期)の重要用語説明(講義) [準備・課題] これまでに学んだことのある慢性期疾患についてその原因をまとめる(2h) | | | | | | |
| 2(柴田) | 慢性期にある対象者の看護① 血液・造血器・免疫機能障がいを持つ成人への看護①(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 3(柴田) | 慢性期にある対象者の看護② 血液・造血器・免疫機能障がいを持つ成人への看護②(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 4(柴田) | 慢性期にある対象者の看護③ 呼吸機能障がいを持つ成人への看護①(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 5(柴田) | 慢性期にある対象者の看護④ 呼吸機能障がいを持つ成人への看護(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 6(柴田) | 慢性期にある対象者の看護⑤ 皮膚疾患、眼・耳鼻疾患を持つ成人への看護(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 7(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑥ アレルギー・膠原病・感染症のある成人への看護(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 8(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑦ 運動機能障がいのある成人への看護①(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 9(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑧ 運動機能障がいのある成人への看護②(講義・グループ討議) [準備・課題] 前回学んだ復習を行い、運動機能障がい生活に与える影響について調べる(2h) | | | | | | |
| 10(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑨ 循環機能障がいを持つ成人への看護①(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習を行い、循環器機能の低下が生活に与える影響について調べる(2h) | | | | | | |
| 11(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑩ 循環機能障がいを持つ成人への看護(講義・グループ討議) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 12(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑪ 内分泌・代謝機能障がいを持つ成人への看護(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習(2h) | | | | | | |
| 13(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑫ 内分泌・代謝機能障がいを持つ成人への看護(講義・グループ討議) [準備・課題] 前回学んだ復習し、生活の再構築に向けた支援について考える(3h) | | | | | | |
| 14(安藤) | 慢性期にある対象者の看護⑬ 腎・泌尿器疾患を持つ成人への看護(講義) [準備・課題] 前回学んだ復習し、生活の再構築に向けた支援をについてまとめる(3h) | | | | | | |
| 15(安藤) | 生活行動の変更への支援および家族や重要他者への関わり、慢性期看護のまとめ(シミュレーション) [準備・課題] 授業全体で学んだ内容について振り返り、総合的なまとめを行う(2h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 広範囲にわたる領域ですので統合した学びをするためにも主体的な学習をお勧めします。 [準備・課題]として示した内容を()に標準学修時間をめどとして取り組みましょう。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 成人看護学(慢性期)の導入となる科目です。看護に対する視野を広げ慢性期看護に興味を持ってもらえるよう学修していきます。オフィスアワーはI号館320号室で特に曜日や時間は指定していません。実習などで不在の時がありますので予め連絡をして来てください。 | | | | | | |

| 成人看護演習 | | 看護学科 | | 2年後期 | | |
|-------------------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：大澤 伸治・安藤 洋子・柴田 由美子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 基礎看護技術で学んだ看護技術を応用し、成人期の患者を看護する上で必要な看護技術について、対象の特性や健康レベルを踏まえて実際の場面を想定しながら、看護技術の根拠及び方法論を学ぶ。シミュレーターや医療機器を用いて臨床実践に近い状況を設定し、グループに分かれて演習を行う。また成人期にある対象の身体的状況、対象とその家族の心理・社会面の特徴を基盤に、問題の明確化及び問題解決をする思考を養うために、紙上事例を活用し情報収集、アセスメント、寒肥企画の立案などの看護過程の展開を学ぶ。 | | | | | |
| 授業方法 | シミュレーターやロールプレイにより、呼吸・循環を傷害された患者の観察方法、呼吸・循環を助けるための診療の補助技術、自己管理が必要な糖尿病患者のセルフモニタリング法やセルフケアなど、対象の特性や健康レベルを踏まえ、実際の場面を想定し教授する。また、成人期にある対象の健康問題について、医療現場で一般的に経験する紙上事例を用い、主にグループワークにより看護過程の展開方法の理解をすすめる。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 解剖生理学をもとに科学的根拠に基づいて看護技術を理解する事ができる。 | | | ○ | |
| | 思考・判断・表現 | 成人期にある対象の看護を展開し、必要な看護介入を考える事ができる。 | | | ◎ | |
| | 技能 | 成人期に必要な看護技術について、科学的根拠及び医療安全の視点で実施する事ができる。 | | | △ | |
| | 関心・意欲・態度 | 演習において問題意識を持ち、主体的に取り組む事ができる。 | | | ◎ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 演習レポート | 20 | 20 | - | 10 | 50 |
| | グループワーク参加姿勢 | - | 20 | 10 | 20 | 50 |
| | | | | | | |
| | 合計(点) | 20 | 40 | 10 | 30 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『DIGITAL NURSINGPICS』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ2 消化器疾患』医学書院 『病気がみえるvol.1 消化器』MEDIC MEDIA | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 (大澤) | 授業オリエンテーション (講義) [課題] シラバスを熟読し単元に必要な知識の準備を行う。(3~6h) | | | | | |
| 2 (大澤) | 看護過程の展開 (講義) [課題] 既習の看護過程について復習し知識の整理を行う。(3~6h) | | | | | |
| 3 (柴田) | 看護過程の展開 事例を活用(例:呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患) (演習) [課題] 事例展開に必要な知識の整理及び情報収集を行う。(3~6h) | | | | | |
| 4 (柴田) | 看護過程の展開 事例を活用(例:呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患) (演習) [課題] GWを進める上で必要な資料の準備を行う。(3~6h) | | | | | |
| 5 (柴田) | 看護過程の展開 事例を活用(例:呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患) (演習) [課題] GWを進める上で必要な資料の準備を行う。(3~6h) | | | | | |
| 6 (柴田) | 看護過程の展開 事例を活用(例:呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患) (演習) [課題] GWを進める上で必要な資料の準備を行う。(3~6h) | | | | | |
| 7 (柴田) | 看護過程の展開 事例を活用(例:呼吸器、循環器、周手術期などにおける疾患) (演習) [課題] GWを進める上で必要な資料の準備を行う。(3~6h) | | | | | |
| 8 (大澤) | 事例発表 (演習) [課題] 事例発表を進められるよう発表資料及び原稿の準備を行う。(3~6h) | | | | | |
| 9 (大澤) | フィジカルアセスメント (演習) [課題] 既習の知識について復習し演習にのぞめるよう準備する。(3~6h) | | | | | |
| 10 (大澤) | フィジカルアセスメント (演習) [課題] 既習の知識について復習し演習にのぞめるよう準備する。(3~6h) | | | | | |
| 11 (安藤) | 自己血糖測定の方法 (演習) [課題] 糖尿病患者のセルフモニタリング法についてまとめる。(3~6h) | | | | | |
| 12 (安藤) | 心電図のとり方 (演習) [課題] 心電図の構造と機能、取り扱い方についてまとめる。(3~6h) | | | | | |
| 13 (安藤) | 心電図のとり方 (演習) [課題] 心電図の構造と機能、取り扱い方についてまとめる。(3~6h) | | | | | |
| 14 (安藤) | シリンジポンプ・輸液ポンプの取り扱い方 (演習) [課題] シリンジポンプ・輸液ポンプの構造と機能、取り扱い方についてまとめる。(3~6h) | | | | | |
| 15 (安藤) | 人工呼吸器の取り扱い方 (講義) [課題] 人工呼吸器の構造と機能、取り扱い方についてまとめる。(3~6h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 既習の知識については理解しているものとして講義を進めます。予習をして講義に臨んで下さい。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 主体的・積極的姿勢で演習に参加して下さい。 講義に関する質問については遠慮なく研究室(A号館313)を訪室してください。 オフィスアワーは毎週月曜日の16時以降で設定します。実習で不在時には事前にアポイントをとって頂ければ調整します。 | | | | | |

| 成人看護学実習(慢性期) | | 看護学科 | | 2年後期 | | | |
|---------------------------------|--|---|-------|----------|-------|----------|-------|
| | | 3単位 | 必修 | 実習 | 135時間 | | |
| [教員]: 安藤 洋子・棚橋 千弥子・大澤 伸治・柴田 由美子 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]: 教務規程第21条による制限有り | | | | | | | |
| 授業内容 | 臨地での実習を通じて、生涯にわたり自己管理を必要とする、慢性期疾患を持った対象者への看護を学びます。慢性期疾患を十分に理解し、対象者の個別性を踏まえ看護を実践・評価する能力を修得します。また、終末期にある対象者の身体・心理・社会背景を理解し、健康レベルにあった看護を実践・評価する能力を修得します。 | | | | | | |
| 授業方法 | 学生2名で1名の対象者を受け持ち、系統だった看護過程の展開を進めます。臨地での学びを整理するため、週に一度学内に帰りグループ間での情報交換及び看護技術の確認を行いながら学びを深めていきます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 1. 慢性期疾患を持ち治療を受ける対象者の状態を述べるができる。 2. 慢性期疾患の病態および予測される障がいとの関連が理解できる。 3. 治療を受けることによって対象者やその家族に及ぼす影響を延べることができる。 | | | ○ | | |
| | 思考・判断・表現 | 1. 健康障がいによって生じた対象者の問題を把握し、状態の変化に合わせた看護過程を展開できる。 2. 対象者の起こり得る合併症を予測し、予防のための援助を実施できる。 | | | ○ | | |
| | 技能 | 1. 安全・安楽・自立の視点で、対象者に必要な日常生活援助ができる。 2. 個別性に合わせて、生活の再構築に向けた指導や支援が実施できる。 | | | ◎ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 1. 主体的・積極的に関わりメンバーシップ、リーダーシップが発揮できる。 | | | ◎ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 実習記録 | | 15 | 15 | - | - | 30 |
| | 看護技術 | | - | - | 10 | - | 10 |
| | 患者とのかかわり | | - | - | 20 | 10 | 30 |
| | 提出物 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 実習態度 | | - | - | - | 20 | 20 |
| 合計(点) | | 15 | 15 | 30 | 40 | 100 | |
| 評価の特記事項 | | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナーシンググラフィカ』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 適宜指示します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| | <p>第1週 慢性期看護において必要な情報収集やアセスメント、看護技術や生活指導方法について、身につけた知識を振り返り、実践することができる。 (水曜日学内実習) 情報の整理および看護の方向性について考える。</p> <p>第2週 慢性疾患を抱えて生活する対象者の特徴を知り、看護過程の実践ができる。 対象者の個別性を踏まえて必要な日常生活援助及び生活指導ができる。 (水曜日学内実習) 生活援助技術の振り返り及び状況に応じた援助の修正や生活指導についてシミュレーションを実施する。</p> <p>第3週 実習での体験を整理して、他の学生と情報を共有することで慢性期看護に対する学びを深めることができる。また、対象者に実施した看護を振り返り、自己の看護観について考えることができる。 (金曜日学内実習) 一連の看護過程を振り返り、実施した看護の評価を発表する。</p> <p>具体的な実習目標や実習内容については実習要項を参照してください。</p> | | | | | | |
| 時間外での学修 | 日々変化する対象者の状況を把握するために、得られた情報を早期にアセスメントし、自己学習をすすめ病態の理解を深めていってください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 臨地での実習は座学では学べない貴重な体験です。今まで学んできた知識や技術を活かし、対象者との信頼関係を築きながら援助を行って行ってください。 実習中は体調の管理を十分に行い、困ったことがあったら教員や臨地の実習指導者に相談してください。 オフィスアワーはI号館320号室 曜日や時間は特に指定しませんが、予め連絡をして来てください。 | | | | | | |

| 老年看護学概論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|---------------------|---|---|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]：吉川 美保 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 老年看護学の概要を知り、老年看護学の基盤となる「老いを生きる高齢者」を理解するとともに、高齢者が「その人らしく最後まで生き、安らかに永眠する」の実現を支援するための老年看護の機能と役割について理解する。 | | | | | | |
| 授業方法 | テキスト・配布資料を用いて講義を中心にやりますが、一部グループ討議を取り入れます。課題では、インタビュー調査を行います。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 老いについての生物学的、心理・社会的意味、加齢に伴う諸機能、生活の変化、社会的諸問題を踏まえ老年期にある対象の特性を理解し、看護実践に必要な基礎的知識基盤を築く。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 老年期の看護の理念、加齢に伴う変化の特徴、ライフサイクルの中での老年期の発達課題、高齢者のQOLと看護の役割、老年看護に適用可能な理論、高齢者の人権擁護、倫理的課題を考察できる。 | | | ◎ | | |
| | 技能 | 現代の日本における超高齢社会の特徴や高齢者施策の動向を関連資料から概観することができる。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 高齢者看護を取り巻く保健、医療、福祉に関心を持ち、主体的に考えようと努力しながら学修に取り組むことができる。 | | | △ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 筆記試験 | | 30 | 20 | - | - | 50 |
| | レポート課題 | | 10 | 20 | 10 | - | 40 |
| | 受講態度 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合計(点) | | 40 | 40 | 10 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 毎回の講義時にミニレポートを提出してもらいます。ミニレポートは、レポート課題および受講態度に反映されます。欠席した場合は加算されません。 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースングラフィカ 高齢者の健康と障害』メディカ出版 『デジタルナースングラフィカ 高齢者看護の実践』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 適宜、講義内で提示します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 高齢者の理解①老年期の特徴 [準備・課題]自分自身の「高齢者観」を見つめる(3h) ミニレポートで考えをまとめる | | | | | | |
| 2 | 高齢者の理解②高齢社会の統計的輪郭 [準備・課題]2025年問題についての課題レポートを完成させる(3~6h) | | | | | | |
| 3 | 高齢者をとりまく社会①高齢社会における保健医療福祉の動向 [準備・課題]学んだ内容を復習する(3h) ミニレポートで知識の確認 | | | | | | |
| 4 | 高齢者をとりまく社会②介護保険制度と地域包括ケアシステム [準備・課題]学んだ内容を復習する(3h) ミニレポートで知識の確認 | | | | | | |
| 5 | 老年看護の理念・役割 [準備・課題]学んだ内容を復習する(3h) ミニレポートで知識の確認 | | | | | | |
| 6 | 高齢者の身体の加齢変化 [準備・課題]身体機能の生理的变化の予習(3h) ミニレポートで知識の確認 | | | | | | |
| 7 | 生活史インタビューから高齢者の健康についてGW [準備・課題]親しい高齢者から生きてきた歴史をインタビューし、課題レポートを完成させる(3~6h) | | | | | | |
| 8 | 高齢者看護の基本(高齢者看護に関わる諸理論、高齢者看護における倫理) [準備・課題]学んだ内容を復習する(3h) ミニレポートで考えをまとめる | | | | | | |
| 時間外での学修 | [準備・課題]として示した内容は講義内容と結びつけ、主体的に学修しましょう。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | GWの休暇期間を利用して高齢者に「生きてきた歴史をインタビューする」というレポート課題を出します。 オフィスアワーはI 326で毎週水曜日12:00~14:00 | | | | | | |

| 老年看護援助論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|---------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：吉川 美保・水上 和典 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 高齢者特有の健康障害と主な疾患が高齢者の生活にどのように影響を与えているのか身体、精神、心理・社会面から幅広く考えられるように学習を進める。高齢者がその人らしく生活するあり方を目標に、高齢者のもてる力を維持・継続させるケアが実践していけるよう基本的知識と看護技術を習得する。 | | | | | |
| 授業方法 | テキスト、配布資料を用いて講義・演習を行います。一部グループ討議やビデオ視聴を取りいれます。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 高齢者の特性および健康障害が生活に及ぼす影響について理解ができる。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 高齢者に生じやすい健康問題に対するアセスメントができる。 | | | ◎ | |
| | 技能 | 高齢者の日常生活を支える看護実践と評価ができる。 | | | ○ | |
| | 関心・意欲・態度 | 老年看護に関心を持ち、主体的に学習に取り組み、自己の考えを示すことができる。 | | | △ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 筆記試験 | 30 | 10 | 10 | - | 50 |
| | 小テスト | 10 | - | - | - | 10 |
| | レポート | - | 20 | 10 | - | 30 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合計(点) | 40 | 30 | 20 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 小テストは講義内で行います。欠席した場合は加算されません。 | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 老年看護学(1)：高齢者の健康と障害』メディカ出版 『デジタルナースング・グラフィカ 老年看護学(2)：高齢者看護の実践』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 鳥羽研二『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護 病態・疾患論』医学書院, 2018 北川公子『系統看護学講座 専門分野Ⅱ老年看護学』医学書院, 2018 その他講義内で適宜提示する | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 高齢者の理解（高齢者疑似体験） [準備・課題] これまでに学んだ高齢者の身体の加齢変化をまとめる(3～6h) 講義内で確認 | | | | | |
| 2 | 高齢者とのコミュニケーションの特徴とかかわり方・起こりやすいコミュニケーション障害 [準備・課題] 学んだ内容を復習する。高齢者の心理についての課題レポートを完成させる(3～6h) | | | | | |
| 3 | 高齢者の歩行・移動を支える看護 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 4 | 転倒、廃用症候群 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 5 | 高齢者の食事・食生活を支える看護 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 6 | 脱水、摂食嚥下障害 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 7 | 高齢者の排泄を支える看護 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 8 | 高齢者の清潔、衣生活を支える看護 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 9 | 高齢者の活動と休息を支える看護 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 10 | 高齢者と環境 [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 11 | 認知症の中核症状とBPSD [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 12 | 認知症を有する高齢者のケア①コミュニケーション、環境、日常生活援助 [準備・課題] 認知症を有する高齢者とのコミュニケーションについて課題レポートを完成させる(3～6h) | | | | | |
| 13 | 認知症を有する高齢者のケア②急性期病院で治療を受ける認知症高齢者の看護 [準備・課題] ICFの視点でアセスメントを完成させる(3～6h) | | | | | |
| 14 | 高齢者のエンドオブライフケア [準備・課題] 終末期の身体的アセスメントを事前学習する(3h) 講義内で確認 | | | | | |
| 15 | 高齢者のリスクマネジメント [準備・課題] 学んだ内容を復習する(3～6h) 小テストで知識の確認 | | | | | |
| 時間外での学修 | 高齢者に関する報道や書籍、映画などに日頃から関心を持って情報収集し、学習内容と関連させながら理解を深めてください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | オフィスアワーは1326で毎週水曜日12：00～14：00（吉川） | | | | | |

| 老年看護学実習 I | | 看護学科 | | 2年後期 | | | |
|------------------------------------|---|---|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 実習 | 90時間 | | |
| [教員]：吉川 美保・松原 薫・北村 美恵子・栗原 美和・水上 和典 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り | | | | | | | |
| 授業内容 | 加齢や健康障害が高齢者の生活に及ぼす影響を理解し、健康生活上の課題を明確化し、高齢者の個性を配慮した看護実践方法を習得する。受け持ち患者を通し、高齢者を総合的に捉え、健康課題を有する高齢者と家族に対する看護過程を展開し、高齢者がその人らしく生きることを支援するための看護実践能力と態度を身に付ける。 | | | | | | |
| 授業方法 | 医療施設において実習を行う。学生1～2名につき1人の患者を受け持ち、臨地実習指導者ならびに教員の指導を受けて実習を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 老年期にある対象をあらゆる側面から総合的に理解できる。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 高齢者の生活に影響を及ぼす健康問題に対するアセスメントができ、看護の焦点を明確にし、看護計画が立案できる。 | | | ◎ | | |
| | 技能 | 個々の対象に応じた援助方法で看護実践ができる。 | | | ○ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 人生の先輩である高齢者を尊重し、看護学生として適切な態度や行動がとれる。 | | | ○ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 実習記録 | | 30 | 20 | 5 | - | 55 |
| | 対象との関わり | | - | 20 | 10 | - | 30 |
| | 実習態度 | | - | - | - | 15 | 15 |
| | 合計(点) | | 30 | 40 | 15 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習評価表に基づき評価する。 ・評価にあたっては臨地実習指導者の意見も参考にする。 ・提出物は指示期限内の提出を必須とする。 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 老年看護学(1)：高齢者の健康と障害』メディカ出版 『デジタルナースング・グラフィカ 老年看護学(2)：高齢者看護の実践』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 山田律子『生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図』医学書院 2016 亀井智子『根拠と事故防止からみた老年看護技術』医学書院, 2016 中央法規東京都健康長寿医療センター看護部『写真でわかる高齢者ケア』インターメディカ, 2010 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| | 「事前学習」 ・老年看護に必要な看護展開、看護実践に必要な看護技術について復習する。 「臨地実習」 ・入院している高齢者を受け持ち、対象の健康上の問題やもてる力を把握する。 ・対象の個性を踏まえて看護計画、実践、評価を行う。 ・臨地実習指導者を中心として、段階を踏んだ看護技術指導を受ける。 ・対象を取り巻く保健医療福祉について学び、連携・協働を理解する。 ・カンファレンスを通して、学習体験を共有し学びを深める。 「課題」 ・毎日、実習の振り返りを行う。 ・老年看護の目的、役割、高齢者に特徴をいかした看護過程の展開、高齢者を支援する制度について学んだ内容を整理する。 | | | | | | |
| 時間外での学修 | 既習の学習内容を復習・整理して実習に臨んでください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 健康管理に努め、感染対策の正しい知識を持って実習に臨んでください。主体的・積極的に学び、学生ならではの看護体験をしましょう。 オフィスアワーは1326で毎週水曜日12：00～14：00（吉川） | | | | | | |

| 在宅看護概論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|---------------------|--|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]：長谷川 真子・古田 桂子 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるために、地域包括ケアシステムに対する理解を深め、その中における看護職の役割と在宅看護の特徴や、在宅療養を支えるために在宅看護に関わる制度や法令について学びます。この科目では、在宅看護を実践する上で必要な知識を学修します。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義中心で行いますが、課題学習やグループワークを活用して授業を展開します。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 地域ケアシステムにおける連携協働の必要性、在宅看護の特徴、関連法令・制度について理解できる。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 在宅看護における看護師の役割と、家族支援のあり方について考えることができる。 | | | ○ | | |
| | 技能 | グループワークの中で、自分の考えを出して、自己の役割が果たせる。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 在宅看護について興味を持ち、自ら学びを深めようとする。 | | | ○ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 筆記試験 | | 50 | 20 | - | - | 70 |
| | 発表(グループワーク) | | - | - | 10 | - | 10 |
| | 課題提出 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 受講態度(ミニレポート) | | - | - | - | 10 | 10 |
| 合計(点) | | 50 | 20 | 10 | 20 | 100 | |
| 評価の特記事項 | ミニレポートは毎回記入して提出してもらいます。欠席すればその分の点数はありません。技能点は、グループワークの取り組み姿勢で評価します。課題提出は2回あり、1課題5点満点で評価します。レポートや態度などの具体的な評価基準は授業で提示します。 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 授業で提示します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | ①在宅看護とは、施設内看護との違いと特徴 ②在宅看護が必要になった社会的背景 [課題]学習したことの復習(1h) | | | | | | |
| 2 | 在宅看護の対象についての特徴 [課題]学習したことの復習(1h) | | | | | | |
| 3 | 在宅看護を支える仕組み：介護保険とケアマネジメント [準備・課題]介護保険とは(2~3h)課題提出のこと(評価対象) | | | | | | |
| 4 | 在宅看護を支える仕組み：訪問看護に関する制度と訪問看護サービス [課題]学習したことの復習(1h) | | | | | | |
| 5 | ①地域包括ケアシステムの構成要素 ②チームケアと多職種との連携(グループワーク：取り組み姿勢を評価) [準備・課題]多職種・機関の役割(指定用紙に調べて記入してくる)課題提出のこと(評価対象)(2~3h) | | | | | | |
| 6 | 継続看護と退院支援・調整における看護の役割 [課題]学習したことの復習(1h) | | | | | | |
| 7 | 家族の介護負担軽減するための訪問看護師の役割(グループワーク：取り組み姿勢を評価) [課題]学習したことの復習(1h) | | | | | | |
| 8 | まとめ [課題]総合的なまとめを復習(3~5h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 授業内容の復習には力を入れてください。また、評価となる課題の実施については、参考文献の転記にとどまらず、自分が理解できるような工夫をしてください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 毎回の授業の目標を理解して、その答えを時間内で理解できるように授業に参画してください。オフィスアワーは、授業日の12:20~13:00ですが、事前連絡してから訪問してください。場所は別途お知らせします。 | | | | | | |

| 在宅看護援助論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|---------------------|--|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 講義 | 30時間 | | |
| [教員]：北村 美恵子 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 在宅看護の対象である療養者と家族の特徴を理解し、在宅における支援のあり方と在宅看護を実践する看護師の役割について理解する。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義とグループワークおよびグループ発表で構成します。グループワークでは、進行予定をグループで話し合い、自主的な取り組みを大切にします。学生自身で調べた事柄を出し合って事例理解を深め、在宅看護のあり方を学びます。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 1) 在宅で療養する対象への看護のあり方を考えることを通し、在宅看護の特徴を理解することができる。 2) 在宅看護における看護過程の展開が理解できる。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 1) 療養者とその家族がもつ問題を理解し、看護援助を考えることができる。 2) 多職種との連携協働の必要性を理解し、その在り方について考えることができる。 | | | ◎ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 1) 課題については積極的に取り組むことができる。 2) グループワークにおいては自己の考えや意見を述べ、考えを深めようと努力できる。 | | | ○ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 筆記試験 | | 30 | 30 | - | - | 60 |
| | レポート | | - | 20 | - | - | 20 |
| | 課題提出 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | グループワーク | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合計(点) | | 30 | 50 | - | 20 | 100 |
| 評価の特記事項 | 課題レポートが2回あり各10点です。レポート評価を受けるには、提示した期限内に提出することが必須です。 | | | | | | |
| テキスト | 『NANDA-I看護診断 定義と分類 2018-2020 原書第11版』医学書院(3,000円)ISBN:9784260034432 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要な資料は配布します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 在宅看護における看護過程の特徴(講義) [課題] 講義内容を復習する(1h) | | | | | | |
| 2 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 在宅における終末期看護とは、アセスメントの視点(講義) [準備] ①事例1の疾患について調べ病態をまとめる ②終末期看護についてまとめる(2~3h) [課題] 情報分析、問題抽出(5~6h) | | | | | | |
| 3 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 情報分析①(講義) [課題] 情報分析の修正(評価対象)(1~2h) | | | | | | |
| 4 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 情報分析② 対象の全体像を把握するための関連図(講義) [課題] 情報分析の修正(評価対象)(1~2h)、関連図作成(3~4h) | | | | | | |
| 5 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 関連図(グループワーク) [課題] グループで関連図、問題リストを仕上げる(1~2h) | | | | | | |
| 6 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 関連図グループ発表 [準備] グループで発表の準備を行う(1h) [課題] 関連図の修正(評価対象)(1~2h) | | | | | | |
| 7 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 生活の場を考慮した看護計画の立案(講義) [課題] 看護計画を仕上げる(評価対象)(1~2h) | | | | | | |
| 8 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 具体策の考案(グループワーク) ①最期の思いを叶えるための援助 ②家族に悔いを残さないようにするための援助 [課題] グループで具体策を仕上げる(1~2h) | | | | | | |
| 9 | 【事例1】終末期にある療養者への看護 具体策のグループ発表 [準備] グループで発表の準備を行う(1h) | | | | | | |
| 10 | 【事例2】難病を患う療養者への看護 難病とは、アセスメントの視点、難病療養者を取りまく制度(特定疾患医療費助成制度、重症障害者医療費助成制度)、療養者と家族の生活を支える多職種と連携協働について(講義) [準備] ①事例2の疾患について調べ病態をまとめる ②難病患者を取り巻く制度(特定疾病医療費助成制度、重度心身障害者医療費助成制度)について調べまとめる(2~3h) [課題] 情報分析(5~6h) | | | | | | |
| 11 | 【事例2】難病を患う療養者への看護 情報分析・問題抽出(講義) [課題] 情報分析の修正(評価対象)(1~2h) | | | | | | |
| 12 | 【事例2】難病を患う療養者への看護 生活の場を考慮した看護計画の立案(講義) [課題] 看護計画を仕上げる(評価対象)(1~2h) | | | | | | |
| 13 | 特別講義 テーマ：[病を持ちながら地域で暮らす人の思いと生き方を学ぶ] | | | | | | |
| 14 | 特別講義 テーマ：[病を持ちながら地域で暮らす人の思いと生き方を学ぶ] [課題] テーマに沿ってレポートを書く(1h) | | | | | | |
| 15 | 【事例3】重度心身障害のある子どもと家族への看護 重度心身障害児を取りまく制度、重度心身障害児および家族の問題とその援助(講義) [課題] 事例2、3を通して、在宅看護における多職種の連携協働の必要性についてレポートを書く(1h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 効果的に授業に臨むために課題を設けています。課題が多いため、事前に確認して計画的に取り組んでください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 3年次の在宅看護論実習の基盤となる講義です。興味を持って事例を展開し、自学自習を積み重ねながら、在宅看護のあり方を学んでください。講義に関する質問については、遠慮なく研究室を訪室してください。オフィスアワーは講義終了後1時間とします。(研究室306) | | | | | | |

| 在宅看護演習 | | 看護学科 | | 2年後期 | | |
|--------------------------|---|-----------------------------------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：北村 美恵子・古田 桂子・長谷川 真子 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 在宅看護で必要とされる基本的な看護技術を学修します。「療養者と家族を支える生活援助」「在宅看護で求められる医療的技術」「快適な療養環境をサポートするための基礎知識」で構成しています。 | | | | | |
| 授業方法 | 演習やワークを多く取り入れて実施します。在宅看護における看護技術の理解が深められるよう事前課題を充実させ、また、演習で体験したことはレポートするなどして、学生が主体的に参画できるよう授業を展開します。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 在宅における日常生活援助や医療技術の特徴が理解できる。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 在宅で求められる技術とその根拠が考えられる。 | | | ○ | |
| | 技能 | 在宅における療養者と家族に対する看護技術の実践方法について学ぶ。 | | | ○ | |
| | 関心・意欲・態度 | 在宅看護について関心をもち、自ら学びを深めようと取り組むことができ | | | ○ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 筆記試験 | 45 | - | - | - | 45 |
| | 提出課題 | - | - | - | 15 | 15 |
| | レポート | - | 25 | 15 | - | 40 |
| | 合計(点) | 45 | 25 | 15 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 事前課題は5回あり各3点です。レポートは8回あり各5点です。演習および受講後のレポート提出による評価が多くあり、欠席すると評価に影響するため注意してください。 | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ』押川真喜子監修 インターメディアカ | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 古田 | 在宅におけるコミュニケーション・指導技術(講義) [準備]在宅看護論に関する講義内容の整理と復習(1h) | | | | | |
| 2 古田 | 訪問時のマナー(演習) ※演習での学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する(評価対象) [準備]訪問時のマナーについて調べる(1h) | | | | | |
| 3 北村 | 在宅における食生活の特徴(講義) ※「嚥下機能が低下している療養者への援助」について指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する(評価対象) [課題]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 4 北村 | 在宅における経管栄養(講義) ※「胃瘻造設を迷っている療養者・家族に対し、どのような援助が必要か」について指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する(評価対象) [準備]経管栄養の種類、胃瘻造設後起こりやすいトラブルと管理について調べる(評価対象)(1~2h) | | | | | |
| 5 北村 | 在宅における中心静脈栄養(講義) [準備]①在宅中心静脈栄養法とは、②おこりやすいトラブルと日常生活上の指導について調べる(評価対象)(1~2h) | | | | | |
| 6 長谷川 | 在宅における感染対策・事故防止(講義・グループワーク) ※グループワークを含む授業での学びを指定の用紙に記入し、授業終了時に提出する(評価対象) [課題]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 7 北村 | 在宅における排泄ケア：尿失禁/持続的導尿(講義) [準備]①尿失禁の種類と対処方法、②尿道留置カテーテルに起こりやすいトラブルと対処方法について調べる(評価対象)(1~2h) | | | | | |
| 8 北村 | 在宅におけるストーマケア：人工肛門(講義) 在宅における呼吸ケア：在宅酸素療法/在宅人工呼吸法/非侵襲的陽圧換気療法(講義) [準備]①人工肛門造設術と造設後の管理について、②在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、非侵襲的陽圧換気療法について調べる(評価対象)(1~2h) | | | | | |
| 9 北村 | 人工肛門のパウチ交換とスキンケア(DVD視聴・演習) ※演習での学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する(評価対象) [課題]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 10 北村 | NPPV、酸素濃縮器の取り扱い(演習) ※演習での学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する(評価対象) [課題]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 11 長谷川 | 在宅における褥瘡予防・褥瘡処置(講義) [準備]褥瘡の発生要因と好発部位、褥瘡予防に対する援助方法について調べる(評価対象)(1~2h) | | | | | |
| 12 長谷川 | 在宅における移動の援助：片麻痺のある療養者の入浴介助(演習) ※演習での学びを指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する(評価対象) [課題]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 13 長谷川 | 在宅における清潔ケア：清潔援助のポイント/入浴に関するアセスメント(講義) [課題]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 14 長谷川 | 在宅における緊急時の対応(講義、事例検討) [課題]学んだ内容を復習する(1h) | | | | | |
| 15 長谷川 | 在宅における終末期看護(講義) ※「在宅における終末期看護で大切なこと」について指定の用紙にレポートし、授業終了時に提出する(評価対象) [準備]在宅看護援助論で学んだ終末期看護について講義資料を整理し復習する(1h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 評価対象は筆記試験だけでなく、課題提出による評価も多いため、事前にシラバスなどで予定を確認して計画的に取り組んでください。 | | | | | |

受講学生への
メッセージ

病院看護と在宅看護の違いを意識して、授業に参画してください。
オフィスアワーは講義終了後1時間とします。(研究室306)

| 小児看護学概論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|---------------------|--|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]：清水 美恵 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 子どもの成長・発達および生活の特徴について学習し、小児に関する保健施策や法律について理解する。さらに、さまざまな健康状態にある子どもとその家族を支援するために必要な基礎的知識を学習する。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心にを行います。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長・発達とその評価方法を説明できる。 新生児期から思春期にいたる各期の心身の成長・発達の特徴と生活について説明できる。 小児に関する保健施策や法律について説明できる。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 子どもの成長・発達、生活の特徴から、小児期におこりやすい健康問題について説明できる。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 子どもの成長・発達という観点から、小児期を理解するために、主体的・継続的に努力する | | | △ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 試験 | | 60 | - | - | - | 60 |
| | 小テスト | | 20 | - | - | - | 20 |
| | レポート | | - | 10 | - | 10 | 20 |
| | 合計(点) | | 80 | 10 | - | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 講義前に小テストを実施するため、必ず、予習をして受講すること。講義終了後にレポートを実施する。 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 小児看護学(1)：小児の発達と看護』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論』医学書院 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | オリエンテーション 小児看護の概要（小児看護の変遷、小児看護の対象、小児看護の役割、など） [準備・課題]子どもの権利について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 2 | 小児に関する保健施策・法律 [準備・課題]小児に関する保健施策について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 3 | 成長発達の一般的原則 乳児期の成長・発達と生活(1)（成長・発達の原理原則、乳児期の形態、身体生理など） [準備・課題]成長発達の一般的原則、乳児期の身体的発達の特徴について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 4 | 乳児期の成長・発達と生活(2)（運動機能、感覚機能、知的・情緒、社会的機能、生活と養育など） [準備・課題]乳児期の運動機能、認知発達について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 5 | 幼児期の成長・発達と生活(1)（形態、身体生理、運動機能、情緒・社会的機能など） [準備・課題]幼児期の身体的発達の特徴について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 6 | 幼児期の成長・発達と生活(2)（生活と養育、安全と事故防止など） [準備・課題]幼児期の生活や遊びの意義について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 7 | 学童期・思春期の成長・発達と生活（学童期の身体的特徴、心理・社会性の特徴、学童期の健康問題、思春期の身体的特徴、心理・社会性の特徴、学童期の健康問題など） [準備・課題]思春期の成長・発達の特徴について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 8 | 小児期の予防接種 [準備・課題]予防接種について自分が理解できるようにまとめる。(2h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | [準備・課題]の内容を自分の言葉でまとめ、該当内容を理解して授業に参加してください。また、復習を行い理解を深めてください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 子どもの成長・発達に関心・興味をもち、子どもの健康的な生活について考えを深めてください。オフィスアワーは、I号館325研究室 木曜日16:30~17:30 | | | | | | |

| 小児看護援助論 | | 看護学科 | | 2年後期 | | | |
|---------------------|---|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 講義 | 30時間 | | |
| [教員]：清水 美恵・楢原 直美 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 子どもに起こりやすい疾患と子どもの身体状況の特徴を学習し、健康障害を抱え生活する子どもとその家族に適切な看護を提供するための基礎的知識を理解する。健康障害を有する子どもに見られる主な症状と症状の回復に向けた個別性のある看護援助を導き出せる力を養い、子どもの権利を尊重する看護の重要性を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業方法 | 講義を中心に行います。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | ・子どもに起こりやすい疾患、症状について理解し、必要な看護援助について述べることができる。 ・子どもの療養環境の特徴について理解し、安全な療養環境を整えるための支援を述べることができる。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | ・さまざまな健康問題をもつ子どもの権利や尊厳を踏まえ、看護支援や方法について述べるができる。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | さまざまな健康問題をもつ子どもとその家族への看護を実践するための看護過程を理解し、その基礎的能力を習得する。 | | | △ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 筆記試験 | | 50 | - | - | - | 50 |
| | 小テスト | | 30 | - | - | - | 30 |
| | レポート | | - | 10 | - | 10 | 20 |
| | 合計(点) | | 80 | 10 | - | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 講義前に小テストを実施するため、必ず、予習をして受講すること。 講義終了後にレポートを実施する。 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 小児看護学(1)：小児の発達と看護』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 必要時、授業で提示します。 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 清水 | オリエンテーション 小児の看護過程の展開（子どもの成長・発達、子どもの病気の理解、子どもの権利、小児のフィジカルアセスメントなど） [準備・課題]子どもの成長・発達について自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 2 清水 | 子どもの療養環境（病気や入院による子どもとその家族への影響など） [準備・課題]入院が子どもとその家族に及ぼす心理的影響について、自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 3 楢原 | 子どもに起こりやすい急性期の疾患と子どもの身体状況の特徴とケア（概要） [準備・課題]発熱、脱水、けいれん、呼吸困難、下痢、嘔吐の機序について、自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 4 楢原 | 子どもに起こりやすい症状と看護①短期的に変化する子どもとその家族の状況（病態分析） [準備・課題]肺炎の病態を自分が理解できるように整理する(2h) | | | | | | |
| 5 楢原 | 子どもに起こりやすい症状と看護②短期的に変化する子どもとその家族の看護支援（看護計画） [準備・課題]肺炎で入院した3歳児の看護計画の根拠についてまとめる(2h) | | | | | | |
| 6 楢原 | 子どもに起こりやすい症状と看護③短期的に変化する子どもとその家族の看護過程の展開 [準備・課題]肺炎に罹患した子どものアセスメントに必要な観察をまとめる(2h) | | | | | | |
| 7 清水 | 子どもに起こりやすい慢性期の疾患と子どもの身体状況の特徴とケア（概要） [準備・課題]子どもの慢性期の疾患について調べ、慢性期の疾患をもつ子どもへの影響について、自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 8 清水 | 子どもに起こりやすい症状と看護④長期的に変化する子どもとその家族の状況（病態分析） [準備・課題]ネフローゼ症候群の病態を自分が理解できるように整理する(2h) | | | | | | |
| 9 清水 | 子どもに起こりやすい症状と看護⑤長期的に変化する子どもとその家族の看護支援（看護計画） [準備・課題]ネフローゼ症候群で入院した7歳児の看護計画の根拠についてまとめる(2h) | | | | | | |
| 10 清水 | 子どもに起こりやすい症状と看護⑥長期的に変化する子どもとその家族の看護過程の展開 [準備・課題]ネフローゼ症候群をもつ子どものアセスメントに必要な観察をまとめる(2h) | | | | | | |
| 11 楢原 | 特別な支援を必要とする子どもとその家族の看護①精神障害および心身障害をもつ子ども [準備・課題]自閉症をもつ5歳児の肺炎の看護について、自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 12 清水 | 特別な支援を必要とする子どもとその家族の看護②ハイリスク新生児、染色体異常 [準備・課題]呼吸窮迫症候群の病態について自分が理解できるように整理する(2h) | | | | | | |
| 13 清水 | 子どもの外来看護および医療的ケアが必要な子どもと在宅支援 [準備・課題]医療的ケアについて自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 14 清水 | 子どもの医療安全 [準備・課題]子どもの感染症について自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 15 清水 | 子どもの権利を守る支援 [準備・課題]子どもの権利について自分が理解できるようにまとめる(2h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | [準備・課題]の内容を自分の言葉でまとめ、該当内容を理解して授業に参加してください。また、十分に復習して理解を深めてください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 小児看護学概論での学びを生かし、さらに、次の小児看護演習へつなげる学修を期待します。 オフィスアワーは、1号館325研究室 木曜日16：30～17：30 | | | | | | |

| 小児看護演習 | | 看護学科 | | 2年後期 | | |
|----------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| [教員]： 鯨原 直美・清水 美恵 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]： 特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 既習の小児看護学概論・小児看護援助論を統合し、小児看護を実践する上で必要な看護過程の展開方法について学ぶ。健康障害をもつ小児の事例から、アセスメント・問題抽出・看護計画の立案だけでなく、入院や健康障害が小児とその家族に及ぼす影響と成長発達段階を踏まえた看護過程の展開方法を習得することを目標とする。 | | | | | |
| 授業方法 | テキストおよび配布資料を活用し、講義・自己学習・ロールプレイを取り入れてペーパーペイシエントの事例展開を行う。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 1. 症状・検査データ・治療をもとに事例の患児の病態について説明することができる 2. 事例の患児の情報から成長発達段階について説明できる | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 1. 事例の患児とその家族の情報から健康障害・入院が与える影響についてアセスメントできる 2. アセスメントの内容から看護上の問題点について抽出できる | | | ◎ | |
| | 技能 | 1. 事例の患児の成長発達段階や病状に応じた看護計画が立案できる 2. ロールプレイをもとに経過記録が記述できる | | | ○ | |
| | 関心・意欲・態度 | 課題に積極的に取り組むことができる | | | △ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 課題レポート | 18 | 22 | 9 | - | 49 |
| | 小テスト | 27 | 10 | - | - | 37 |
| | ロールプレイング | - | - | 6 | - | 6 |
| | 課題提出 | - | - | - | 8 | 8 |
| | 合計(点) | 45 | 32 | 15 | 8 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースングラフィカ 31巻・32巻・33巻』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018-2020』(医学書院、2018) 『発達段階からみた小児看護過程+病態関連図』(医学書院、2012) | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 鯨原 | 小児看護におけるアセスメントの視点① ゴードンの機能的健康パターン1~3 (小児の病態を踏まえた、健康知覚/健康管理・栄養/代謝・排泄におけるアセスメントの視点・よく上がる問題について学ぶ) [準備・課題]小児看護概論・小児看護援助論の講義の復習(1h) | | | | | |
| 2 鯨原 | 小児看護におけるアセスメントの視点② ゴードンの機能的健康パターン4~8 (小児の発達・生活を踏まえた、活動・睡眠・家族関係におけるアセスメントの視点・よく上がる問題について学ぶ) [準備・課題]小児でよく使用する看護診断 課題プリントへの記入(1h) | | | | | |
| 3 鯨原 | 肺炎 3歳児の事例より ゴードンの機能的健康パターン1~3の情報分析と問題抽出① (事例をもとに患児の病態を分析し、看護上の問題と看護の方向性を見いだす) [準備・課題]事例の病態分析(1h) | | | | | |
| 4 鯨原 | 肺炎 3歳児の事例より ゴードンの機能的健康パターン1~3の情報分析と問題抽出② (事例をもとに患児の栄養状態・排泄状態を分析し、看護上の問題と看護の方向性を見いだす) [準備・課題]事例の情報分析(パターン1~3)(1h) | | | | | |
| 5 鯨原 | 肺炎 3歳児の事例より ゴードンの機能的健康パターン4~8の情報分析と問題抽出① (事例をもとに患児の成長発達段階と入院による影響について分析し、看護上の問題と看護の方向性を見いだす) [準備・課題]事例の情報分析(パターン4~8)(1h) | | | | | |
| 6 鯨原 | 肺炎 3歳児の事例より ゴードンの機能的健康パターン4~8の情報分析と問題抽出② (事例をもとに患児とその家族の生活状況と入院による影響について分析し、看護上の問題と看護の方向性を見いだす) [準備・課題]事例の情報分析(パターン4~8)(1h) | | | | | |
| 7 鯨原 | 肺炎 3歳児の事例より 問題リスト作成と看護計画立案① (抽出した問題を整理し、優先順位を決定する。それぞれの問題に対し長期・短期目標を設定する) [準備・課題]問題リストの作成・目標設定・看護計画立案(1h) | | | | | |
| 8 鯨原 | 肺炎 3歳児の事例より 問題リスト作成と看護計画立案② (患児の病状・成長発達段階を踏まえ、根拠にもとづく具体的な看護計画を立案する) [準備・課題]看護計画立案(1h) | | | | | |
| 9 清水 | 肺炎 3歳児の事例より 看護の実際(ロールプレイング)① (実際の援助場面を想定し、立案した看護計画をもとに患児の病状・入院環境の観察を行う) [準備・課題]看護計画立案・ロールプレイング準備(1h) | | | | | |
| 10 清水 | 肺炎 3歳児の事例より 看護の実際(ロールプレイング)② (実際の援助場面を想定し、立案した看護計画をもとに看護介入を行う) [準備・課題]看護計画立案・ロールプレイング準備(1h) | | | | | |
| 11 鯨原 | 肺炎 3歳児の事例より 経過記録(計画の評価・修正) (ロールプレイングでの患児・家族の状況をSOAPで記録し、実施した援助を評価する) [準備・課題]経過記録記載(1h) | | | | | |

| 内容 | |
|-----------------|---|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 12 鉦原 | ネフローゼ症候群 7歳児の事例より 情報分析・問題抽出① (情報をもとに患児の病態・栄養状態・排泄状態を分析し、 看護上の問題・看護の方向性を見いだす) [準備・課題]事例の病態分析 (1h) |
| 13 鉦原 | ネフローゼ症候群 7歳児の事例より 情報分析・問題抽出② (情報をもとに患児の成長発達段階・生活状況・家族関係と 入院による影響を分析し、看護上の問題・看護の方向性を見いだす) [準備・課題]事例の情報分析 (1h) |
| 14 鉦原 | ネフローゼ症候群 7歳児の事例より 問題リスト作成と看護計画立案① (抽出した問題を整理し、優先順位と長期・短期目標を設定する) [準備・課題]問題リスト作成・目標設定・看護計画立案 (1h) |
| 15 鉦原 | ネフローゼ症候群 7歳児の事例より 問題リスト作成と看護計画立案② (患児の病状・成長発達段階を踏まえ、根拠にもとづく具体的な看護計画 を立案する) [準備・課題]看護計画立案 (1h) |
| 時間外での学修 | まずは自分で考え、課題に取り組むこと。講義を通して自己の不足部分を追加・修正し、疑問点はそのま まにせず、自己学習・教員への質問などにより解決していきましょう。 |
| 受講学生への メッセージ | この演習での学びが小児看護学実習につながります。実習での看護展開に活かせるように意欲的に取り組 んでください。オフィスアワーは、I号館106研究室 木曜日 16:00~17:00 |

| 母性看護学概論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | | |
|---------------------|--|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | | |
| [教員]：我部山 キヨ子・緒方 京 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | 母性看護の概念と基本理念、及び女性を取り巻く社会や母子保健政策の動向を理解し、女性の性と生殖機能の特徴を踏まえた健康を支えるための看護について学ぶ。女性の健康(ウィメンズヘルス)の視点から、女性のライフサイクルに応じた各時期における特徴と課題、リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、対象の健康の保持・増進、疾病予防、健康の回復、それに影響する女性自身の生き方や考え、女性の家族や社会のしくみについて考える。母性看護の中心を構成する周産期にある女性とその家族を支えるシステム、関連法規について理解し、周産期とその周辺の社会の課題について学ぶ。 | | | | | | |
| 授業方法 | 配布資料とテキストを使用し、講義を中心に進める。 | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 母性の概念と母子保健の現状について理解する。 女性の性と生殖の資質に関わる生物学的構造と機能について理解する。 生殖機能の成熟過程とその影響要因および逸脱について理解する。 女性のライフステージ(思春期・成熟期・更年期・老年期)における身体機能と構造の変化について理解する。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 女性のライフサイクルからみた健康問題について自己の考えを持つことができる。 女性のライフステージにおけるヘルスクエアについて自己の考えを持つことができる。 特別な支援を要する女性の健康問題とその支援方法について自己の考えを持つことができる。 健康な女性より望ましい生き方とその環境について自己の考えを持つことができる。 | | | ○ | | |
| | 技能 | 母性を取り巻く現代の社会環境から母性看護に関わる職種やその連携が認識できる。 | | | ○ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 母性を取り巻く現代の社会環境や女性のライフサイクルに関心を持ち、積極的に学習できる。 | | | ○ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 筆記試験 | | 50 | 10 | 10 | - | 70 |
| | 課題提出 | | - | 10 | 5 | 5 | 20 |
| | リアクションカードの記載内容 | | - | - | - | 10 | 10 |
| | 合計(点) | | 50 | 20 | 15 | 15 | 100 |
| 評価の特記事項 | 「課題提出」はレポートの内容、「リアクションカードの記載内容」では各授業に対するリアクションにみる母性看護への関心度を評価する。 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースングラフィカ 母性看護学(1)：母性看護実践の基本』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論(第13版)』医学書院 『わが国の母子保健 平成29年度』母子保健事業団 『病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第3版』メディックメディア | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 (我部山) | 母性の定義と母性看護の概念、母子保健統計の動向 [準備・課題] 「母性とはどのようなものか」について自分なりの考えを記述する。(3h) | | | | | | |
| 2 (緒方) | 母性看護の基盤となる理論・理念(母親役割・父親役割、母子相互作用、愛着形成、家族の発達と機能、セルフケアとヘルスプロモーション、ウェルネス) [準備・課題] 主要概念について要点を述べられるように整理する。(3h) | | | | | | |
| 3 (我部山) | リプロダクティブ・ヘルスの概念、関連法規・施策と支援(DV防止、虐待防止)、倫理的課題(人工妊娠中絶、生殖補助医療、出生前診断) [準備・課題] リプロダクティブヘルスに関連する母子保健統計の主要な用語の意義と算出方法について整理する。(3h) | | | | | | |
| 4 (緒方) | 生殖に関する生理(性周期、性行動・性反応、ヒトの発生・性分化、受胎のメカニズム) [準備・課題] 女性の性周期とホルモンの関連について、自分の言葉で説明できるように整理する。(3h) | | | | | | |
| 5 (緒方) | 女性のライフサイクル各期における看護1ー思春期・成熟期女性の健康課題と看護1ー [準備・課題] 思春期に必要なヘルスプロモーションについて調べ、具体策を1つ立案する。(3h) | | | | | | |
| 6 (緒方) | 女性のライフサイクル各期における看護2ー更年期・老年期女性の健康課題と看護1ー [準備・課題] 更年期女性の事例に関する理解と看護の方向性を自分の言葉で述べられるようまとめる。(3h) | | | | | | |
| 7 (緒方) | 周産期医療システムと母性保護・子育て支援に関する母子保健施策 [準備・課題] 母子保健施策に関連する主な法規の内容を整理する。(3h) | | | | | | |
| 8 (緒方) | 特別な支援を必要とする女性の理解と看護(在留外国人の母子支援、災害時の母子支援、若年・高年妊娠の母子支援) [準備・課題] 若年妊娠の事例に関する理解と看護の方向性を自分の言葉で述べられるようまとめる。(3h) | | | | | | |
| 時間外での学修 | 課題は、各回の授業内容を整理し、知識の定着を図ることを中心に、自分の考えを自分の言葉で構築する機会としています。女性の健康を取り巻く社会の現状やしくみ、現代社会が抱える課題に広く注目し、具体的な意見や感想を述べられるようにまとめるトレーニングを積んでください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 女性の健康と女性やその家族を取り巻く社会、それに携わる看護の役割について学修します。これからの女性のライフサイクルにおいて、何が女性の健康を支えるのか、女性がその人らしく生きるためにどのような社会が必要なのかを、講義をとおして自分自身の人生、母親や祖母など身近な女性の生涯を見つめながら考えてみましょう。 オフィスアワーと場所は各回の担当教員から別途連絡します。 | | | | | | |

| 母性看護援助論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|----------------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 講義 | 30時間 | |
| [教員]: 緒方 京 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]: 特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の身体的・心理的・社会的特徴と変化を理解し、妊産婦と新生児およびその家族の健康を支援する看護援助について学修する。また、ハイリスク状態、正常から逸脱した状態にある妊産婦と新生児の理解、およびその看護に必要な知識を学修する。女性の妊孕性やセクシュアリティに関わる女性生殖器の異常と看護についても学ぶ。 | | | | | |
| 授業方法 | 配布資料とテキストを使用し、講義を中心に進める。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 正常な妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の身体的・心理的・社会的特徴と変化について説明できる。妊娠・分娩・産褥期の正常からの逸脱の状態について説明できる。妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児への看護援助方法を理解できる。妊孕性やセクシュアリティに関連する女性生殖器疾患とその看護についての知識を持つことができる。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児に対する看護援助の具体的方法について考えることができる。周産期の母子の理解を通して生命の尊厳と人間尊重について自己の考えを持つことができる。 | | | ○ | |
| | 関心・意欲・態度 | 周産期における母子に関心を持ち、積極的に学習できる。 | | | △ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 筆記試験 | 50 | 20 | - | - | 70 |
| | 小テスト | 10 | - | - | - | 10 |
| | 課題提出 | 10 | - | - | 5 | 15 |
| | リアクションカードの記載内容 | - | - | - | 5 | 5 |
| | 合計(点) | 70 | 20 | - | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | 「課題提出」は課題で作成するポートフォリオの内容、「リアクションカードの記載内容」は母性看護援助に対する関心度を評価する。「小テスト」は、各講義で提示する課題に関して、基礎的知識の定着を確認するため、次の回の講義冒頭で行う。 | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースンググラフィカ 母性看護学(1): 母性看護実践の基本』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論(第13版)』医学書院 『系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論(第13版)』医学書院 『病気がみえる vol.10 産科 第3版』メディックメディア | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 妊娠の成立と妊娠週数に応じた母体の身体的変化・特徴、胎児付属物の特徴 [準備・課題] 女性生殖器の構造と機能について復習してくる。(4h) | | | | | |
| 2 | 妊娠経過に伴う胎児の生理的変化と特徴 妊娠期の女性とその家族の心理的・社会的変化と特徴 [準備・課題] 妊娠経過に伴う母体と胎児の変化について時系列で整理する。(4h) | | | | | |
| 3 | 妊娠期的変化に対する適応過程と看護 [準備・課題] 妊娠期的変化に適応し、健康を増進する生活(食事と栄養、活動と休息、清潔、性生活、嗜好品、出産・育児準備教育、家族の再調整)について要点を整理する。(4h) | | | | | |
| 4 | 妊娠期の異常と看護(ハイリスク妊娠、妊娠合併症、感染症、妊娠部位・期間・胎児数・胎盤の異常) [準備・課題] 流・早産、妊娠悪阻、妊娠貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、前置胎盤、常位胎盤早期剥離とその看護の要点を整理する。(4h) | | | | | |
| 5 | 分娩の3要素、分娩の経過と進行 [準備・課題] 分娩の3要素と経過に関する用語を定義する。産婦の健康状態を左右する因子について整理する。(4h) | | | | | |
| 6 | 産婦の身体的・心理的・社会的特徴と看護(分娩促進・産痛緩和ケア、基本的ニーズの充足) [準備・課題] 正常に経過するための分娩期の看護の要点を整理する。(4h) | | | | | |
| 7 | 分娩期の異常と看護(破水の異常、分娩時異常出血、胎児機能不全、陣痛異常、人工分娩の種類と適応) [準備・課題] 前期・早期破水、分娩時異常出血、胎児機能不全、陣痛異常の要因と産褥期・早期新生児期への影響、看護の要点を整理する。(4h) | | | | | |
| 8 | 出生直後の新生児の生理的特徴と看護 [準備・課題] 新生児の呼吸・循環・体温の出生前後の変化と特徴、原始反射・筋緊張の特徴について整理する。(4h) | | | | | |
| 9 | 早期新生児の特徴・変化と異常(神経系、運動器系、循環器系、生体の防御機能、呼吸器系、代謝系、泌尿器系、体温調節)、新生児の看護(処置、検査を含む) [準備・課題] 早期新生児の看護の原則について、新生児の特徴と合わせて整理する。(4h) | | | | | |
| 10 | 産褥期の退行性変化と看護(全身状態の特徴と変化、生殖器の復古、その経過を促進する看護) [準備・課題] 産褥期の全身状態・生殖器の変化、復古に影響する因子、復古を促進し快適に過ごすための褥婦の日常生活とセルフケアについて要点を整理する。(4h) | | | | | |
| 11 | 産褥期の進行性変化と母乳育児支援(乳房の変化、乳汁産生・分泌の機序、母乳育児の基本と支援) [準備・課題] 褥婦の進行性変化の特徴、母乳育児支援の要点を整理する。(4h) | | | | | |
| 12 | 褥婦と家族の心理・社会的変化(分娩の受けとめ、母親役割適応過程、親子の愛着形成、育児技術獲得への支援、家族の再調整) [準備・課題] 褥婦と家族の心理と役割調整の経時的変化、支援の要点について整理する。(4h) | | | | | |
| 13 | 産褥期の異常と看護(子宮復古不全、産褥熱、排尿トラブル、乳房トラブル、産後精神障害、流・死産) [準備・課題] 産褥期の異常の原因と症状、予防方法について整理する。(4h) | | | | | |
| 14 | 帝王切開術で出産する女性の看護 [準備・課題] 帝王切開術の母子への影響、術前・術後の身体的・心理的・社会的ケアについて要点を整理する。(4h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 15 | 女性生殖器疾患と看護(不妊症、月経異常・性感染症・腫瘍など女性生殖器疾患の特徴、治療と健康課題に対する看護) [準備・課題]女性のホルモン変動、思春期・青年期・更年期・老年期の特徴について復習しておく。(4h) |
| 時間外での学修 | 毎回の授業で、第1回と第15回は受講に向けての「人体の機能と構造」「母性看護学概論」での既習内容の復習、それ以外は各講義の復習課題を提示します。課題学習はそのまま実習や国家試験対策に活用できるよう、ポートフォリオを作成していきましょう。ポートフォリオの詳細については、授業で説明します。 |
| 受講学生へのメッセージ | 妊娠は病気ではなく、妊娠から出産、産後への変化は本来健康的なものです。しかしながら、易逸脱状態にあり、家族各々の役割転換も必要となります。女性とその家族が思い描く姿をより安全に、より安楽に実現していくための支援、そして生命の尊重や慈しみ、家族の在り方など看護の原点を形成する学びを、積極的に食欲に培っていきましょう。 オフィスアワーは講義後1時間、場所はI号館の研究室327（緒方研究室）とします。 |

| 母性看護演習 | | 看護学科 | | 2年後期 | | |
|---------------------|---|--|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | |
| [教員]：戸村 佳美・緒方 京 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 周産期における母体内および母体の現象、新生児の状態を観察しアセスメントするための、エビデンスに基づいた看護技術の習得と看護過程の事例展開を行う。 | | | | | |
| 授業方法 | テキストと配布資料、視聴覚教材を使用して、講義・演習・グループワーク・個人ワークを組み合わせる。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 妊産褥婦および新生児特有の生理的変化についての知識を持ち、エビデンスに基づいた看護技術が理解できる。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 妊産褥婦および新生児とその家族の特徴と対象の状況を結びつけながら、対象に必要な看護援助の方法や、問題の解決方法を示すことができる。 | | | ◎ | |
| | 技能 | 妊産褥婦および新生児の特徴とエビデンスに基づいた看護技術を安全、安楽に実施できる。母子および家族に必要なコミュニケーション能力、観察力を身につけることができる。 | | | ◎ | |
| | 関心・意欲・態度 | 母子および家族の援助と、それらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力しながら学修に取り組むことができる。 | | | △ | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 小テスト | 30 | - | - | - | 30 |
| | 実技試験 | - | - | 30 | - | 30 |
| | レポート | - | 30 | - | - | 30 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| 合計(点) | 30 | 30 | 30 | 10 | 100 | |
| 評価の特記事項 | 受講態度は学修への取組状況、発表や提出物の状況で総合的に評価する。3分の1以上欠席した場合は、単位を与えない。 | | | | | |
| テキスト | 『ナースングラフィカ 母性看護学(2)』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 石村由利子編『根拠と事故防止からみた母性看護技術』医学書院 佐佐正勝 他『ウェルネスからみた母性看護過程』医学書院 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 母性看護学演習ガイダンス 妊婦の看護に関わる看護技術(講義・DVD視聴) ・妊娠期における看護技術(妊婦健診と観察・胎児心音聴取・レオポルド触診法・腹囲測定・子宮底測定・NSTモニター・乳房の手当てとマッサージ) [準備・課題] 妊娠期の胎児発育、胎児の胎位・胎向、妊娠に伴う全身・生殖器の変化についてノートまとめ。(3h) | | | | | |
| 2 | 妊婦の看護に関わる看護技術(演習) ・妊娠期における看護技術(胎児心音聴取・レオポルド触診法・腹囲測定・子宮底測定・乳房の手当てとマッサージ) [準備・課題] 動画集視聴(触診・計測法) 講義資料を参考にして技術の復習をしておく。(1.5h) | | | | | |
| 3 | 褥婦の看護に関わる看護技術(講義・DVD視聴) ・産褥期における看護技術(退行性変化の観察と援助方法・進行性変化の観察と援助方法) [準備・課題] 子宮復古の機序、悪露の性状と変化、母乳分泌の機序と母乳育児を促す看護についてノートまとめ。(3h) | | | | | |
| 4 | 褥婦の看護に関わる看護技術(演習) ・産褥期における看護技術(子宮復古の観察・悪露の観察と交換・産褥体操・乳房および母乳分泌の観察・授乳の援助方法) [準備・課題] 講義資料を参考にして技術の復習をしておく。(1.5h) | | | | | |
| 5 | 新生児の看護に関わる看護技術(講義・DVD視聴) ・新生児の看護に関わる看護技術(分娩期における看護技術、成熟度および全身の観察、バイタルサインの測定、抱き方と排気方法、清潔援助、おむつ交換、衣類の着脱) [準備・課題] 新生児の生理的特徴(呼吸・循環・体温・肝機能・腎機能・消化・免疫・神経について)ノートまとめ。(3h) | | | | | |
| 6 | 新生児の看護に関わる看護技術1(演習) ・新生児の看護に関わる看護技術(バイタルサインの測定、成熟度および全身の観察、身体計測) [準備・課題] 講義資料を参考にして技術の復習をしておく。(1.5h) | | | | | |
| 7 | 新生児の看護に関わる看護技術2(演習) ・新生児の看護に関わる看護技術(沐浴、おむつ交換、衣類の着脱) [準備・課題] 講義資料を参考にして技術の復習をしておく。(1.5h) | | | | | |
| 8 | 母性看護における看護過程1(講義・グループワーク) ・ウェルネス思考と看護援助 ・産褥期の看護過程における情報収集の方法 [準備・課題] 事例をもとに情報を整理する。(3h) | | | | | |
| 9 | 母性看護における看護過程2(講義・グループワーク) ・産褥期の母子の事例について情報を整理 ・グループワークの発表 [準備・課題] 事例について前回のグループワークで学んだことを参考にして情報の整理を完成する。(3h) | | | | | |
| 10 | 母性看護における看護過程3(講義・グループワーク) ・情報のアセスメント [準備・課題] 事例の情報が正常から逸脱していないか、必要な看護を考えアセスメントする。(3h) | | | | | |
| 11 | 母性看護における看護過程4(講義・グループワーク) ・情報のアセスメントのグループ発表 ・看護診断の抽出と看護計画 [準備・課題] 事例の情報から看護診断を抽出する。(1h) | | | | | |

| 内容 | |
|-------------|--|
| 実施回 | 授業内容・目標 |
| 12 | 母性看護における看護過程5（グループワーク） <ul style="list-style-type: none"> ・看護診断の抽出と看護計画 ・看護計画の発表 [準備・課題] 事例の情報から看護診断を抽出する。（1h） |
| 13 | 母性看護の援助の実際1（演習） <ul style="list-style-type: none"> ・事例の看護援助についてのロールプレイ ・ロールプレイについてグループでの振り返り [準備・課題] グループ内で看護計画の確認を行う。事例の看護について事前学習を確認してくる。（1h） |
| 14 | 母性看護の援助の実際2（演習） <ul style="list-style-type: none"> ・事例の看護援助についての全体でのロールプレイ ・全体での振り返りとまとめ |
| 15 | ハイリスク新生児・周産期の死における家族への看護（講義・グループディスカッション） [準備・課題] 課題プリント、動画集視聴「不妊治療」「生殖医療チーム」（2h） |
| 時間外での学修 | [準備・課題] として示した内容を（ ）の標準学修時間をめどとして確実に取り組みましょう。 |
| 受講学生へのメッセージ | 母性看護演習は、母性看護学実習で展開する看護過程で、実際に母子に提供する技術を中心に学びます。オフィスアワーは毎週木曜日の13時～15時、306号室。 |

| 精神看護学概論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|---------------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 講義 | 15時間 | |
| [教員]：酒井 和美 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 精神看護学では精神的に健康な人々から精神に障害をきたした人までを対象にしている。精神の機能と障害の知識を基に、成長発達段階及び生活の中での精神の危機的状況（思春期、青年期、壮年期、老年期、感情障害、いじめ、不登校、自殺等）と援助のありかたについて学ぶ。また精神保健福祉法や精神保健に関する法制度やその変遷、精神障害の歴史を学び、精神看護の理解を深める。 | | | | | |
| 授業方法 | テキストや参考資料を用いて講義中心に行う。 授業内容によってグループワークを適宜実施する。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 成長発達や危機的状況の基本的知識および精神保健のニーズや課題と精神保健福祉対策の法制度の内容や変遷を関連づけて理解できる。 | ◎ | | | |
| | 思考・判断・表現 | ライフサイクルにおける危機やさまざまな精神障害の症状の捉え方が理解できる。 | ○ | | | |
| | 技能 | 精神看護における他職種との連携や協働の必要性が理解できる。 | △ | | | |
| | 関心・意欲・態度 | 精神看護について関心を持ち、自分の考え方を表現することができる。 | △ | | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | |
| | 筆記試験 | 50 | 20 | 10 | - | 80 |
| | レポート | 5 | 5 | - | - | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合計(点) | 55 | 25 | 10 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナースング・グラフィカ 精神看護学①：情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学①』医学書院 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | こころの健康と精神障害のとらえ方と現代の精神看護のニーズ。 [準備・課題]精神疾患と精神看護のニーズの背景を考え、まとめる。(2h) | | | | | |
| 2 | 人間のこころと行動（こころの危機とストレス理論など）。 [準備・課題]学んだ内容の復習。(2h) | | | | | |
| 3 | 人生各期の発達課題・ライフサイクルとメンタルヘルス。 [準備・課題]学んだ内容の復習。(2h) | | | | | |
| 4 | 現代社会とこころの問題。 [準備・課題]関心をもった現代社会のこころの健康問題とその背景を考え、まとめる。(3h) | | | | | |
| 5 | 精神症状と精神疾患。 [準備・課題]学んだ内容の復習。(2h) | | | | | |
| 6 | 家族と健康 [準備・課題]学んだ内容の復習。(2h) | | | | | |
| 7 | 精神保健福祉をめぐる法制度（精神医療領域に必要な法律と制度）。 [準備・課題]「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」の要点をまとめる。(2h) | | | | | |
| 8 | 精神保健福祉行政の歴史と精神保健医療福祉対策の現状及び課題 [準備・課題]精神障害者の治療と人権の歴史をまとめる。(2h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 精神看護学概論は精神看護の基本となりますから、学習した内容の記録を確実に残してください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | オフィスアワーは（精神看護学学習日を除く）、月曜日から金曜日の16:20～17:00です。場所はA-312研究室です。 | | | | | |

| 精神看護援助論 | | 看護学科 | | 2年前期 | | |
|---------------------|--|---|----------|------|----------|-------|
| | | 2単位 | 必修 | 講義 | 30時間 | |
| [教員]：酒井 和美 | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | |
| 授業内容 | 代表的な精神症状や問題行動、精神疾患をもつ患者・家族への生活援助方法、並びに診断・治療への援助として薬物療法、精神療法等の主な治療に伴う看護、精神保健福祉活動と看護の役割、リハビリテーションの展開について学ぶ。また倫理的問題や福祉関連法規について学ぶ。 | | | | | |
| 授業方法 | テキストや参考資料を用いて講義中心に行う。看護に必要な知識を具体的に理解できるよう、適宜DVDの視聴を取り入れながら授業を行う。 | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | 精神看護を理解する上で必要となる基本的知識が理解できる。 | | | ◎ | |
| | 思考・判断・表現 | 精神看護における援助技術の実際が理解できる。 | | | ○ | |
| | 技能 | 他職種の役割が理解でき、連携や協働のありかたと看護の役割を考えることができる。 | | | △ | |
| | 関心・意欲・態度 | 授業に積極的に参加し、精神看護について自己の考えや意見を示すことができる。 | | | △ | |
| 観点別評価 | 評価方法 | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 筆記試験 | 50 | 20 | 10 | - | 80 |
| | レポート | 10 | - | - | - | 10 |
| | 受講態度 | - | - | - | 10 | 10 |
| | | | | | | |
| | 合計(点) | 60 | 20 | 10 | 10 | 100 |
| 評価の特記事項 | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本』メディカ出版 『デジタルナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際』メディカ出版 | | | | | |
| 参考書・教材 | 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の実際』医学書院 | | | | | |
| 内容 | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | |
| 1 | 精神看護援助論講義の概要説明・精神看護学概論振り返り [準備・課題]精神看護学概論の復習。(1h) | | | | | |
| 2 | 精神看護における対象の理解 [準備・課題]学んだ内容の復習。(1h) | | | | | |
| 3 | 精神看護における対象の理解(精神疾患をもつ人の理解) [準備・課題]学んだ内容の復習。(1h) | | | | | |
| 4 | 精神看護におけるケアの方法 [準備・課題]学んだ内容の復習。(1h) | | | | | |
| 5 | 薬物療法にかかわる看護 [準備・課題]疾患別での薬物療法と看護についてまとめる。(2h) | | | | | |
| 6 | ストレスマネジメント・リエゾン精神看護(精神専門看護師の役割) [準備・課題]学んだ内容の復習。(1h) | | | | | |
| 7 | 精神障害と看護の実際(感情障害) [準備・課題]学んだ内容の復習。(1h) | | | | | |
| 8 | 精神障害と看護の実際<統合失調症(急性期・回復期)> [準備・課題]学んだ内容の復習。(2h) | | | | | |
| 9 | 精神障害と看護の実際<統合失調症(慢性期・リハビリ期)> [準備・課題]学んだ内容の復習。(1h) | | | | | |
| 10 | 精神障害と看護の実際(神経症、パーソナリティ障害) [準備・課題]学んだ内容の復習。(1h) | | | | | |
| 11 | 精神障害と看護の実際(自閉症スペクトラム、摂食障害、薬物依存) [準備・課題]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 12 | 精神障害と看護の実際(薬物療法と有害事象) [準備・課題]学んだ内容の復習(1h) | | | | | |
| 13 | 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法とその運用 [準備・課題]入院生活での人権擁護についてまとめる。(2h) | | | | | |
| 14 | 精神保健福祉活動とリハビリテーション [準備・課題]社会復帰のための社会資源についてまとめる。(2h) | | | | | |
| 15 | 精神障害者の社会復帰についてと、精神看護援助論についてのまとめ [準備・課題]精神障害者の地域包括医療についての問題点と社会資源活用方法をまとめる。(3h) | | | | | |
| 時間外での学修 | 準備や課題に示した内容を確実に学修してください。 | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | オフィスアワーは(精神看護学実習日を除く)、月曜日から金曜日まで15:00~16:00です。場所はA-312研究室です。 | | | | | |

| 精神看護演習 | | 看護学科 | | 2年後期 | | | |
|---------------------|---|--|-------|----------|------|----------|-------|
| | | 1単位 | 必修 | 演習 | 30時間 | | |
| [教員]：酒井 和美 | | | | | | | |
| [関連する資格・履修制限等]：特になし | | | | | | | |
| 授業内容 | こころの機能と障害について学習し、こころを病む人の代表的な障害の事例を通して援助技術の基本や対象への看護過程展開方法について習得する。 | | | | | | |
| 授業方法 | 紙上事例を使って事例展開（個人ワーク）とディスカッション、適宜DVDの視聴を取り入れながら進める。（2事例を準備） | | | | | | |
| 到達目標 | 知識・理解 | こころの機能と障害について理解する。 心を病む人への治療的コミュニケーション技術、観察技術、対象の安全管理、人権擁護や基本的な援助技術について理解する。 | | | ◎ | | |
| | 思考・判断・表現 | 精神に障害をもった患者の看護過程の展開方法が理解できる。 | | | ◎ | | |
| | 技能 | 精神医療における看護師の役割と、他職種との連携と協働の中で看護師としてリーダーシップ・メンバーシップについて理解できる。 精神障害をもった患者の看護実践における他職種との連携・協働について理解する。 | | | △ | | |
| | 関心・意欲・態度 | 精神障害をもった患者の看護について関心をもち、積極的に学習することができる。 | | | △ | | |
| 観点別評価 | 評価の観点 | | 知識・理解 | 思考・判断・表現 | 技能 | 関心・意欲・態度 | 合計(点) |
| | 評価方法 | | | | | | |
| | 看護過程の事例展開（2事例） | | 30 | 30 | - | - | 60 |
| | 課題レポート | | 10 | 10 | - | - | 20 |
| | 看護理論理解 | | - | - | 10 | - | 10 |
| | 受講態度 | | - | - | - | 10 | 10 |
| 合計(点) | | 40 | 40 | 10 | 10 | 100 | |
| 評価の特記事項 | | | | | | | |
| テキスト | 『デジタルナーシング・グラフィカ 精神看護学①：情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版 『デジタルナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』メディカ出版 | | | | | | |
| 参考書・教材 | 『系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開』医学書院 『精神看護学実習ポケットブック 増補版』中野浩幸他 精神看護出版 | | | | | | |
| 内容 | | | | | | | |
| 実施回 | 授業内容・目標 | | | | | | |
| 1 | 精神看護実践における看護の役割と対象の捉え方 [準備・課題]①入院のメリット・デメリットとはなにか ②精神科の入院形態とは ③治療的関係とは ④暴力を予防するために注意することは (2h) | | | | | | |
| 2 | 患者の権利擁護 [準備・課題]こころを病む人を守るための関連法規について（「精神保健及び精神障害者福祉に関する法」など）(1h) | | | | | | |
| 3 | 患者・看護師関係① 人間関係作りの技術 [準備・課題]コミュニケーション技術について | | | | | | |
| 4 | 患者・看護師関係② プロセスレコード [準備・課題]プロセスレコードの個人ワーク (2h) | | | | | | |
| 5 | 患者・看護師関係③ プロセスレコードの分析 [準備・課題]人間関係作りの理論 (2h) | | | | | | |
| 6 | オレム・アンダーウッドによる「セルフケア不足理論」とは [準備・課題]精神看護の関係深い看護理論家 (1h) | | | | | | |
| 7 | 事例展開：事例1の紹介と情報整理 [準備・課題]事例1の情報まとめ・解釈（分析）・問題の抽出 (3h) | | | | | | |
| 8 | 事例展開：事例1の看護過程展開 [準備・課題]事例1の看護過程展開 (2h) | | | | | | |
| 9 | 事例展開：事例1の発表と評価 [準備・課題]事例1の発表準備 (3h) | | | | | | |
| 10 | 事例展開：事例2の紹介と情報整理 [準備・課題]事例2の情報まとめ・解釈（分析）・問題の抽出 (3h) | | | | | | |
| 11 | 事例展開：事例2の問題リスト作成と関連図作成 [準備・課題]問題リスト作成とその理由、関連図作成 (3h) | | | | | | |
| 12 | 事例展開：事例2の看護計画作成 [準備・課題]看護計画と目標設定 (2h) | | | | | | |
| 13 | 事例展開：事例2の発表と評価 [準備・課題]事例2の発表準備 (3h) | | | | | | |
| 14 | 事例展開：事例1・2のまとめ [準備・課題]臨床における精神看護の実際とその評価について 抗精神病薬の有害事象（副作用）への看護について | | | | | | |
| 15 | 社会移行に向けた看護について [準備・課題]急性期・回復期・慢性期の看護のポイントについて 社会資源を活用した地域移行への支援について | | | | | | |
| 時間外での学修 | 2事例での看護展開を行っていきます。必ず代表的な精神疾患（統合失調症、感情障害など）の病態と薬物療法について勉強するようにこころがけてください。 | | | | | | |
| 受講学生へのメッセージ | 心を病む人に対してのとらえ方を復習しておいてください。また日頃の人間関係について見つめ直してみよう。 オフィスアワーは（精神看護学実習日を除く）、月曜日から金曜日の15:00～16:00です。場所はA-312研究室です。 | | | | | | |